SONY

3-867-396-**02** (2)

トリニトロン® カラーテレビ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

KV-29DRX5
KV-34DRX5

目次

見る

調整する／設定する

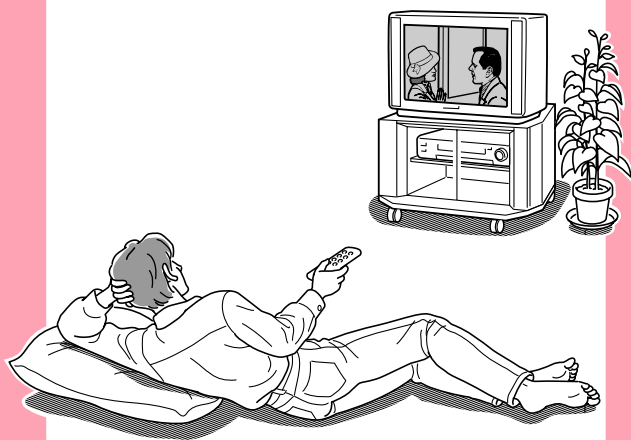
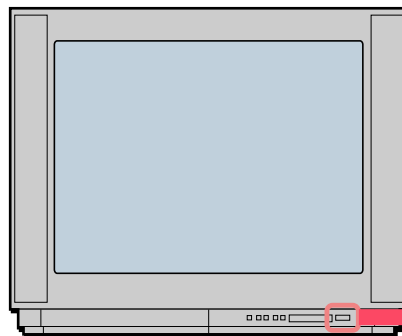
テレビの接続と準備

他機との接続

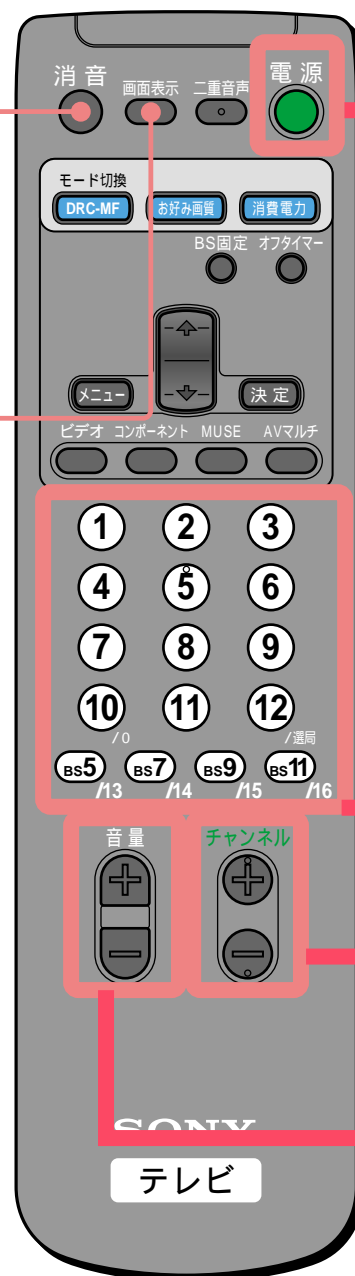
その他

見る

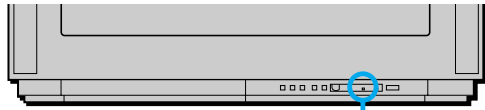
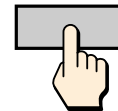
テレビ / BS放送を見る

ここでは、通常のテレビやBS放送をはじめ、ビデオやテレビゲームなどテレビにつないだ機器の映像を見るときの操作を説明しています。
画質を選んだり、節電しながら見たり、横長の画面にしたりするなど、多彩な機能の操作も説明しています。

消音ボタン
一時的に音を消すときに押します。
もう1度押すか、音量＋ボタンを押すと音が出ます。

画面表示ボタン
チャンネル表示を出すときに押します。
もう1度押すと表示は消えます。

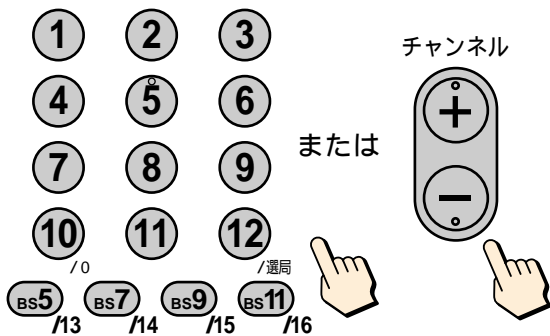
チャンネル数字ボタンには、暗い場所でも操作しやすいように、ほのかに青白く光る蓄光材が入っています。そのため、太陽光や明るい照明の下などに約10分間以上置くと光が蓄えられ、暗くなると数時間光り続けます。暗い場所に放置したときは、光りません。

ちょっと一言

- スタンバイ/オフタイマーランプが点灯しているときは、リモコンのチャンネル数字ボタンやチャンネル＋/－ボタンを押すと自動的にテレビの電源も入ります（チャンネルポン機能）。
- 省電力のため、放送が終了して（または放送のないチャンネルにしたまま）約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて自動的にスタンバイモードになります。

1 テレビの電源を入れる。

2 チャンネル数字ボタンでチャンネルを選ぶ。

チャンネル＋/－ボタンでもチャンネルを選べます。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 /0 /選局 BS5 /13 BS7 /14 BS9 /15 BS11 /16

または

チャンネル

BS放送は以下のチャンネルになります。

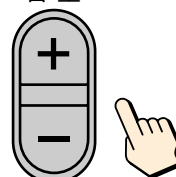
見たい放送	押すボタン
WOWOW（BS5）*1	BS5 /13
NHK衛星第一（BS7）	BS7 /14
ハイビジョン放送（BS9）*2	BS9 /15
NHK衛星第二（BS11）	BS11 /16

*1 BSデコーダー（WOWOW）の電源を入れてください。なお、WOWOWは、別途WOWOWと受信契約し、専用のBSデコーダー（WOWOW）が必要です。

*2 本機内蔵のMUSE-NTSCコンバーターを通して通常のテレビ放送（NTSC）と同じ画質で、見ることができます。1999年6月現在、BS9チャンネルで実用化試験局によるハイビジョン放送が行われています。

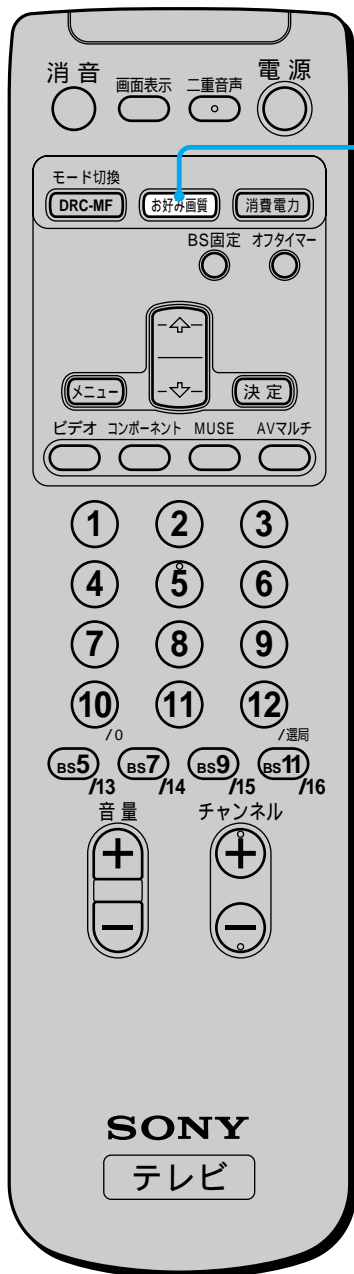
3 音量＋/－ボタンで音量を調節する。

ちょっと一言

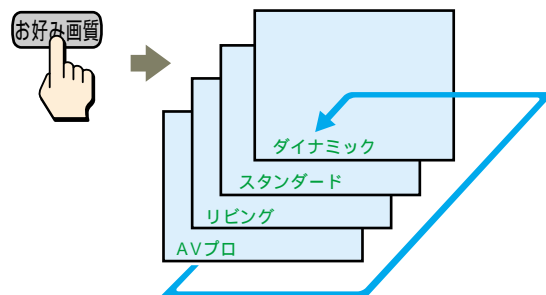
音量表示の横にある数値も調節の目安になります。

画質を選ぶ

（お好み画質）

お好み画質ボタンを押すだけで、部屋の明るさや映像の内容に合わせた画質設定を選べます。また、「リビング」や「AVプロ」を選ぶと、画質をより細かく調整できます（☞12ページ）。

ご家庭で通常ご覧になるときは、「リビング」を選ぶことをおすすめします。

お好み画質ボタン

お好み画質ボタンをくり返し押す。

1回押すと、現在の画質設定が表示されます。その後、押すたびに、次のように変わります。

ダイナミック
映像の輪郭とコントラストを最大限に上げたメリハリの非常に強い画質になります。

スタンダード
明るめの部屋に合わせたコントラスト感のある画質になります。

リビング
明るさや色あい、色の濃さなど基本的な調整ができます（☞12ページ）。「標準」では、標準的な部屋の明るさに合わせた適度なコントラストのある画質になります。

AVプロ
色温度や黒補正など、よりきめ細かな調整ができます（☞12ページ）。「標準」では、コントラストと輪郭強調を抑えて、オリジナルにできるかぎり忠実な、DRC（☞7ページ）の性能をより引き出した画質になります。

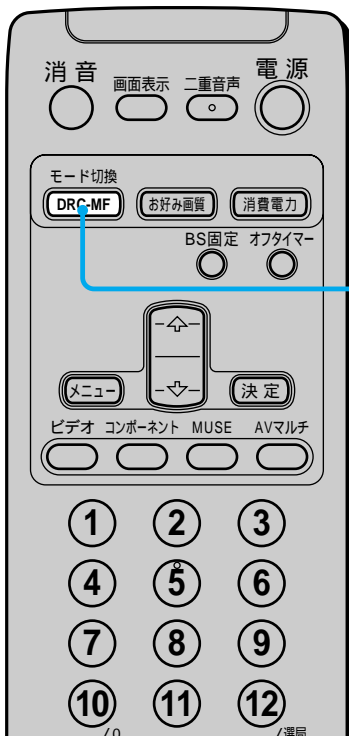
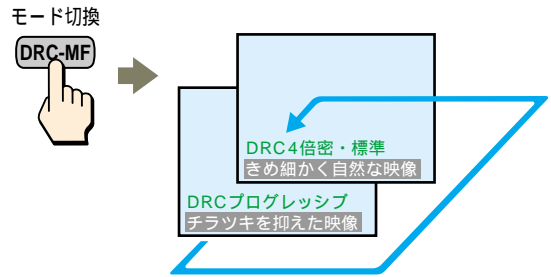
映像に合ったリアル高画質で見る
（DRC-MFモード切換）

本機搭載の高画質回路「DRC-MF」（デジタル・リアリティー・クリエーション:マルチファンクション）で、大画面で気になる画像の粗さをなくし、きめ細かくて質感のあるリアルな画像を楽しめます。
通常ご覧になるときは、お買い上げ時の設定であるDRC4倍密（標準）モードのまま、お楽しみください。よりきめ細かく自然な映像をお楽しみいただけます。静止画の文字などのチラツキが気になるときは、DRCプログレッシブモードに切り換えてください。

DRC4倍密（標準）モード

通常のNTSC映像を4倍の情報量で映し出し、きめ細かく自然な映像にします。

DRCプログレッシブモード

順次走査（プログレッシブ）を行い、チラツキを抑えた映像にします。

DRC-MFモード切換ボタンをくり返し押す。

この画像のときは	この画面表示を選ぶ
テレビやBS放送、ビデオなどの一般的な映像を見るとき	
静止画の文字やグラフィックス、細かい横線などが多い映像で、部分的な映像の揺れやチラツキが気になるとき	

ちょっと一言
メニュー画面でも操作できます。メニュー画面の「（画質/音質）」から、「DRC-MF」を選び、「DRC4倍密・標準」か「DRCプログレッシブ」を選んでください。

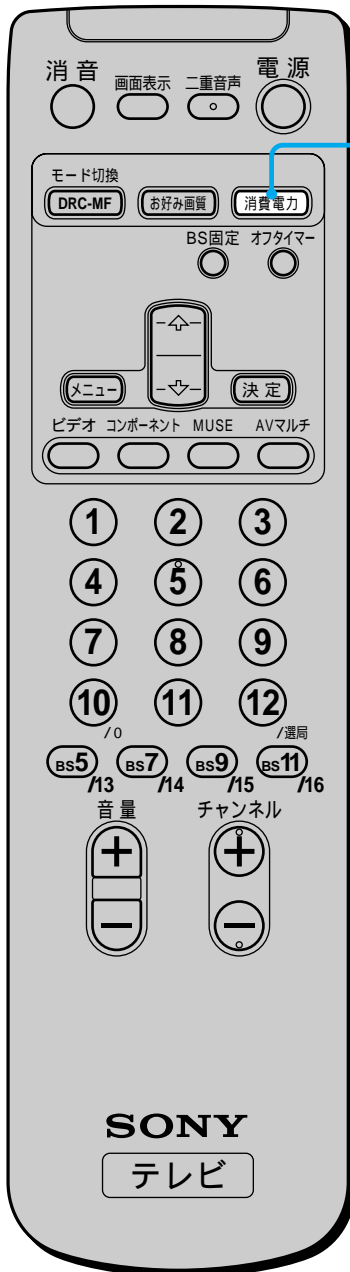
ご注意
以下のときは、DRC-MFモード切換ボタンは働きません。
－コンポーネント1～3入力端子につないだ機器から525p（525プログレッシブ）や1125i（1125インターレース）の信号を受信しているとき
－AVマルチ入力端子につないだ機器の映像*
* 働く映像もあります（☞47ページ）。

映像がざらついて見えるときは

受信信号の状態が良くないときに、ざらついて見えることがあります。お好み画質ボタンを押して「リビング」または「AVプロ」を選んでから、画質調整のメニュー画面で「シャープネス」を弱めてください（☞12ページ）。

節電しながら見る

（消費電力）

画面の明るさを下げて、節電しながら見ることができます。

消費電力ボタンを押す。

節電中になります。

消費電力：減

節電をやめるには

もう1度、消費電力ボタンを押す。
「消費電力:標準」と表示されます。

ちょっと一言

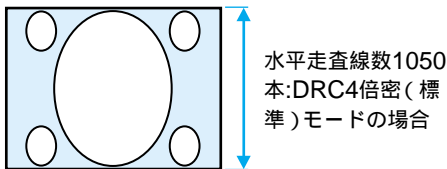
- 「消費電力:減」のときに電源を切ると、次に電源を入れたときも「消費電力:減」のままになります。
- メニュー画面でも操作できます。メニュー画面の「 (各種切換)」から、「消費電力」を選び、「標準」か「減」を選んでください。
- お好み画質で「リビング」または「AVプロ」を選んでいるときは、「消費電力:減」でも、画質を調整できます（☞12ページ）。ただし、「ピクチャー」や「明るさ」を上げると節電にならなくなる場合があるため、おすすめしません。

横長の画面にする
（ワイドモード）

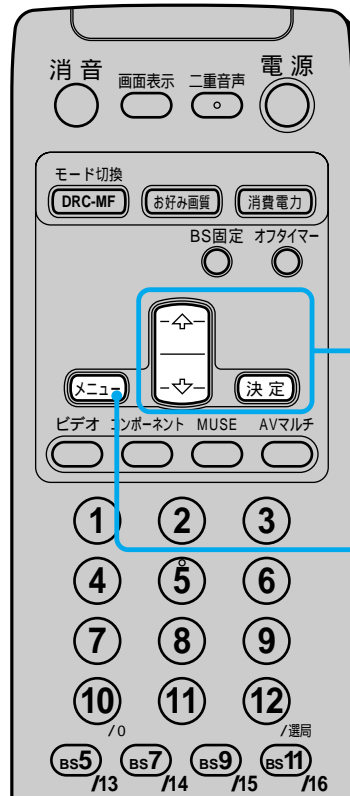
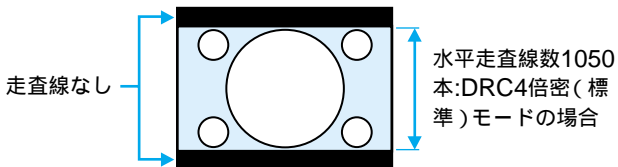
下のイラストのように、ハイビジョン放送やビデオカメラ、DVDプレーヤーなど、横縦比16:9映像をあらかじめ縦長に圧縮して記録された映像を、元の16:9のワイド画像にして見ることができます。また、画面上下の黒帯部分を除いた部分（映像が表示されている部分）に、水平走査線を集める技術によって、非常に高密度な16:9映像をお楽しみいただけます。

ちょっと一言
ワイド映像（スクィーズ映像）対応のDVDソフトの映像をより高画質に見るために、DVDプレーヤーの「TVタイプ」の設定を「16:9」にしてください。詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

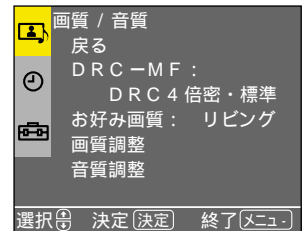
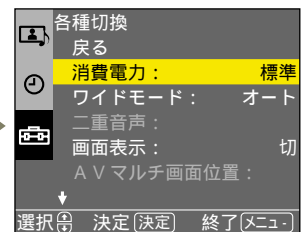
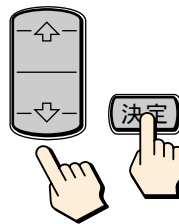
ワイドモード「切」のときの映像（16:9映像を縦長に圧縮した映像）

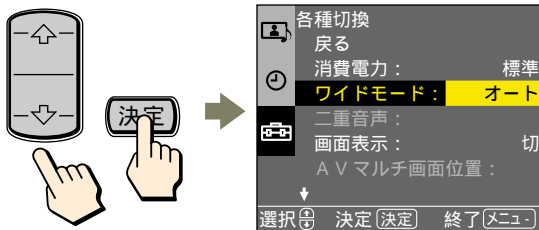
水平走査線数1050本:DRC4倍密（標準）モードの場合

ワイドモードが働いているときの映像（16:9映像）

走査線を密にしてより高画質にします。

水平走査線数1050本:DRC4倍密（標準）モードの場合

1 メニューボタンを押す。

2 ↑/↓で「（各種切換）」を選び、決定ボタンを押す。

次のページにつづく

横長の画面にする（つづき）

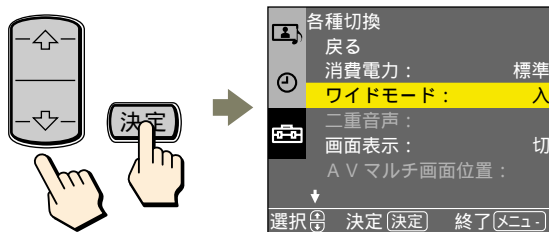
3 ↑/↓で「ワイドモード」を選び、決定ボタンを押す。

4 ↑/↓で「オート」を選び、決定ボタンを押す。

通常は、「オート」（お買い上げ時の設定）にしておいてください。
横縦比の信号（ID-1/S1方式）が入った映像は、自動判別して縦方向を圧縮した横縦比16:9のワイド画面にし、それ以外の映像はオリジナルそのままに映します。

「入」を選ぶと

すべての映像を縦方向に圧縮します。

「切」を選ぶと

すべての映像をオリジナルそのままに映します。

ご注意

ハイビジョン放送（BS9）やMUSE入力の映像は、強制的に「入」で固定されるため、ワイドモードの項目を選ぶことはできません。

5 メニューボタンを押して、メニューを消す。

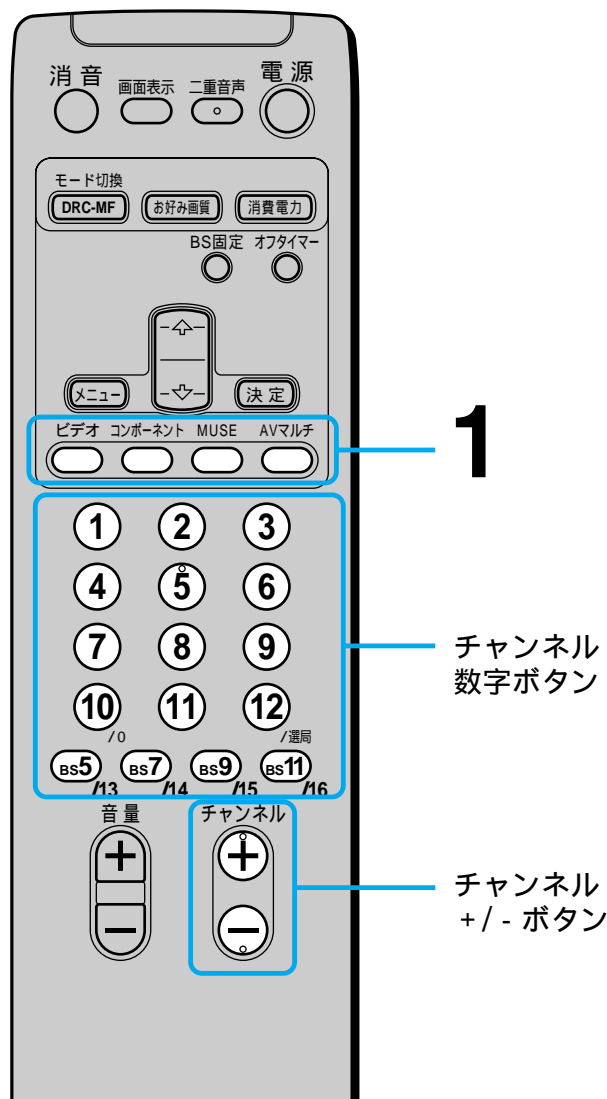
「オート」のときのご注意

- 横縦比の信号（ID-1/S1方式）が正しく判別されないと、ワイド画面になりません。そのため、以下のように再生する機器をつないでください（☞41、42ページ）。また、再生する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
  – S1映像出力端子があるときは、本機のS1映像入力端子（ビデオ1〜4入力）にS映像コードでつないでください。
  – S1映像出力端子がなくてもビデオID-1システム対応のときは、本機のID-1に対応した映像入力端子（ビデオ1〜4入力、BSデコーダー/ビデオ5入力）に映像コードでつないでください。
  – S1映像出力端子がなく、ビデオID-1システムにも対応していないときは、正しく判別されないことがあります。

ワイドモードについてのご注意

- 通常のテレビやBS放送など横縦比4:3の映像で、ワイドモードを「入」にすると、縦方向に圧縮されて不自然に見えます。
- ワイドモード機能を、喫茶店やホテル等で、営利目的、または公衆に視聴させる目的として使用すると、著作権法で保護されている著作権の権利を侵害する恐れがありますのでご注意願います。
- ワイドクリアビジョン放送や上下に黒帯が入っている横長の映画などのワイド画像のときは、「オート」または「切」にしてください。
  「入」を選ぶと、従来から入っていた黒帯の部分まで縦方向に圧縮されて、よりつぶれた映像になるためです。
- 本機のBS/ビデオ出力端子につないだビデオで、ワイドモードにした映像（16:9映像）をそのままの画面サイズで録画することはできません。本機のビデオ出力端子からは、元のオリジナル映像（16:9映像を縦長に圧縮した映像）の信号で出力されるためです。

テレビにつないだ機器の画像を見る

入力を切り換えて、テレビにつないだビデオ機器やテレビゲーム、デジタルCS放送などの画像を見ることができます。接続のしかたについては、☞36～51ページをご覧ください。

ちょっと一言
本体の入力切換ボタンをくり返し押して、入力を切り換えることもできます。

1 入力切換用のボタンを押して、見たい画面を選ぶ。

各ボタンを押すたびに、それぞれの端子につないだ機器の画像に切り換わります。

押すたびに	以下につないだ機器の画像になります。	画面表示も変わります。
ビデオ	• ビデオ1入力端子	ビデオ1*2 ↓
	• ビデオ2入力端子	ビデオ2*2 ↓
	• ビデオ3入力端子	ビデオ3*2 ↓
	• ビデオ4入力端子	ビデオ4*2 ↓
	• BSデコーダー/ビデオ5入力端子*1	ビデオ5（→ビデオ1に戻る）
コンポーネント	• コンポーネント1入力端子	Dコンポーネント1 *3 ↓
	• コンポーネント2入力端子	Dコンポーネント2*3 ↓
	• コンポーネント3入力端子	コンポーネント3（→Dコンポーネント1に戻る）
MUSE	• MUSE入力端子	MUSE
AVマルチ	• AVマルチ入力端子	AVマルチ

*1 お買い上げ時は、ビデオ5入力は選べない設定になっています。BSデコーダー/ビデオ5入力端子にビデオ機器などをつなぎ、「デコーダー/ビデオ」の設定を「ビデオ5」に変えると選べます（☞39ページ）。

*2 S1映像端子につないでいるときは、「Sビデオ1」～「Sビデオ4」と表示されます。

*3 D3映像入力端子につないでいるため、先頭に「D」と付きます。

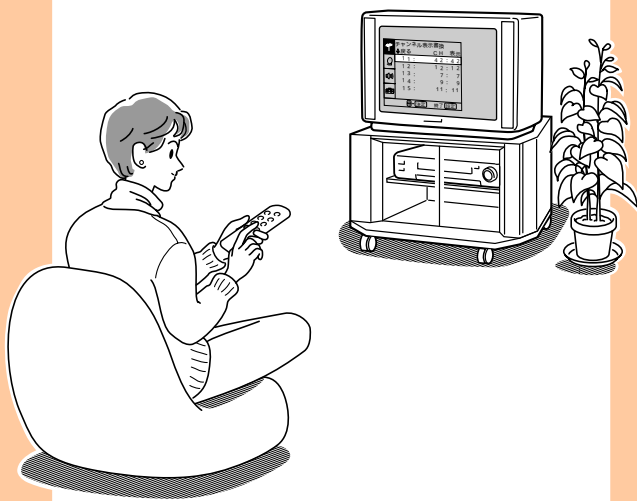
2 接続している機器を操作する。

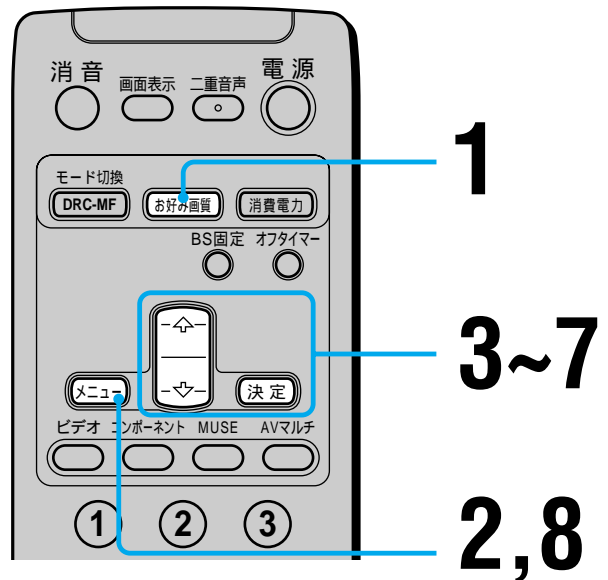
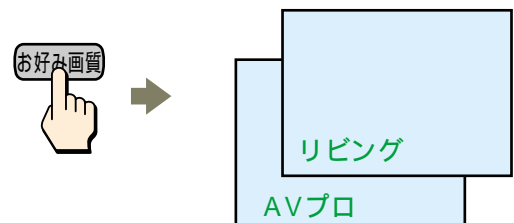
詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

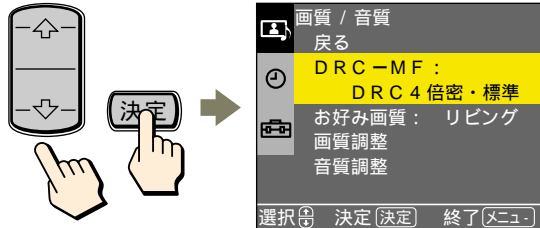
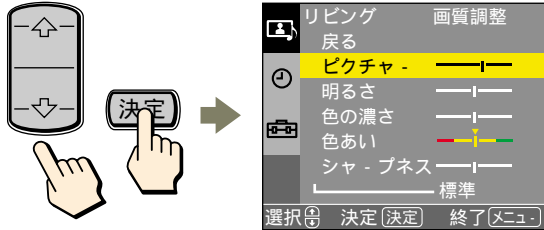
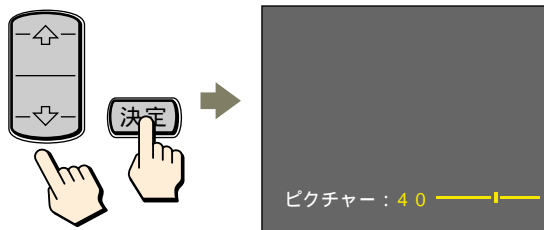
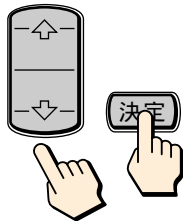
テレビ画面に戻すときは

チャンネル数字ボタンまたはチャンネル+/−ボタンを押す。

調整する/設定する

ここでは、画質や音質を調整する応用的な操作を説明しています。
BS放送やハイビジョン放送をビデオに録画したり、予約録画したりするときの操作も説明しています。
また、本機に内蔵されている時計を使って、自動的に電源を切ったり、時刻表示をしたりする操作も説明しています。

画質を調整する

お好み画質ボタンで「リビング」や「AVプロ」を選ぶ（☞6ページ）と、画質をより細かく調整できます。画質は、入力切換用のボタンで選べる各入力ごとに設定できます（ただし、通常のテレビ放送とBS放送、ハイビジョン放送は共通の設定になります）。

1 **お好み画質ボタンをくり返し押して、「リビング」または「AVプロ」を選ぶ。**

2 **メニューボタンを押す。**

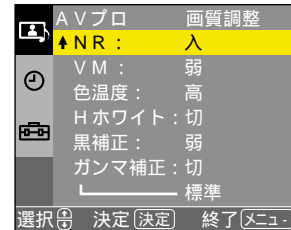
3 ↑/↓で「（画質/音質）」を選び、決定ボタンを押す。

4 ↑/↓で「画質調整」を選び、決定ボタンを押す。

5 ↑/↓で調整したい項目を選び、決定ボタンを押す。

6 ↑/↓で調整し、決定ボタンを押す。

「リビング」と「AVプロ」両方で調整できる項目

項目	↑を押すと	↓を押すと
ピクチャー	明暗の差が大きくなる	明暗の差が小さくなる
明るさ	明るくなる	暗くなる
色の濃さ	濃くなる	薄くなる
色あい	緑がかる	赤みがかる
シャープネス	映像の輪郭がくっきりする	映像の輪郭が柔らかくなる

ちょっと一言

調節バーの横に表示される数値も調節の目安になります。

「AVプロ」でのみ調整できる項目

↓を押し続けて「シャープネス」の下まで移動すると、以下の項目が調整できます。

項目	説明	選べる設定
NR*（ノイズリダクション）	**通常は「入」にしておいてください。** 「入」:映像のざらつきや色ノイズを軽減する（ゴーストなど電波障害は軽減されない）。 「切」:テレビにつないだ機器の元の映像信号（処理していないオリジナル信号）の状態を確認するときなどに選ぶ。ただし、映像のざらつきや色ノイズが強調されたり、色にじみが出ることがある。	入/切
VM（ベロシティモジュレーション）（速度変調）	映像の輪郭を強調する。	強/中/弱/切
色温度	「高」から「低」にしていくと赤みがかった暖かみのある色調になる。	高/中/低
Hホワイト（ハイパー）	白の鮮明さを強調する。	入/切
黒補正	黒を強調してコントラストを強くする。	強/中/弱/切
ガンマ補正	映像の明暗部分のバランスを調整する。	強/中/弱/切

* **通常のテレビ放送とBS放送、およびコンポーネント1〜3入力端子、AVマルチ入力端子、MUSE入力端子につないだ機器の映像のときは、調整できません。**
ビデオ1〜4入力端子と、BSデコーダー/ビデオ5入力端子につないだ機器の映像のときは、調整できます。

次のページにつづく

画質を調整する（つづき）

7 **他の項目を調整するときは、手順5と6をくり返す。**

8 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

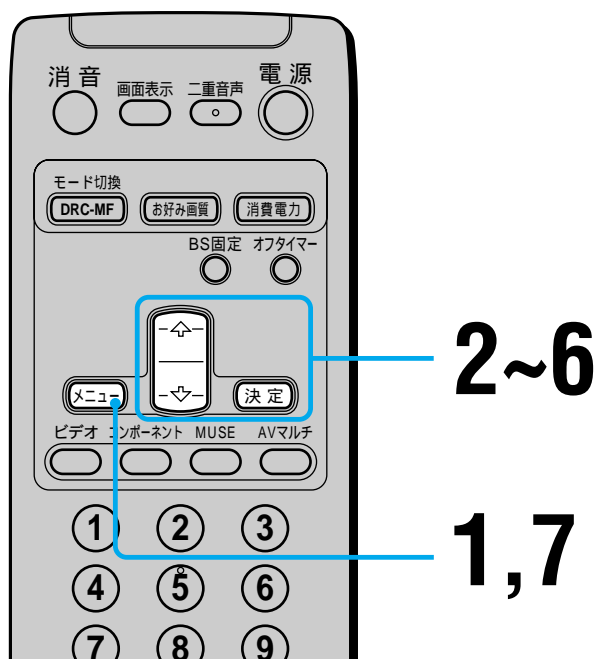
お買い上げ時の状態に戻すには

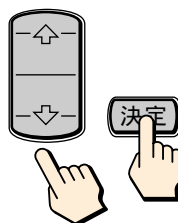
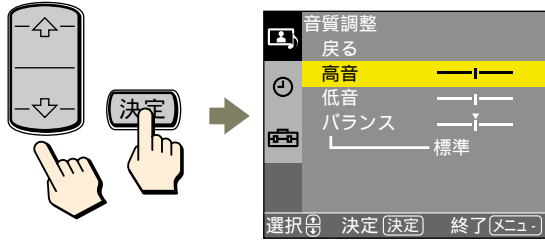
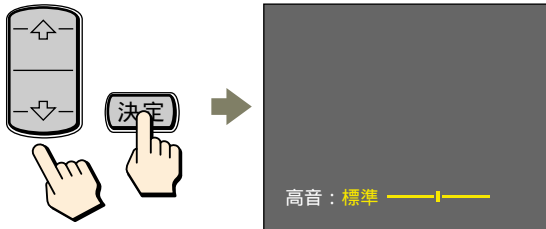
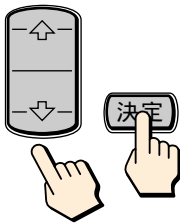
手順5で、「標準」を選び、決定ボタンを押す。

ご注意

「ダイナミック」と「スタンダード」（☞6ページ）では、画質調整できません。

音質を調整する

音質は、入力切換用のボタンで選べる各入力ごとに設定できます（ただし、通常のテレビ放送とBS放送、ハイビジョン放送は共通の設定になります）。

1 **メニューボタンを押す。**

2 **↑/↓で「（画質/音質）」を選び、決定ボタンを押す。**

3 ↑/↓で「音質調整」を選び、決定ボタンを押す。

4 ↑/↓で調整したい項目を選び、決定ボタンを押す。

5 ↑/↓で調整し、決定ボタンを押す。

項目	↑を押すと	↓を押すと
高音	強くなる	弱くなる
低音	強くなる	弱くなる
バランス	右スピーカーの音が強くなる	左スピーカーの音が強くなる

ちょっと一言
調節バーの横に表示される数値も調節の目安になります。

6 他の項目を調整するときは、手順4と5をくり返す。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

お買い上げ時の状態に戻すには

手順4で、「標準」を選び、決定ボタンを押す。

ご注意
ヘッドホンの音質調整はできません。ヘッドホンで聞いているときに音質調整をすると、ヘッドホンを抜いたときに出るスピーカーからの音が調整されます。

それぞれの音を聞き取りやすくするには（音像定位エンハンサー機能）

テレビの音源は左右2つずつのスピーカーですが、画像に映った人の声や楽器などの音のイメージ（音像）を、それぞれがそこにあるかのようにするのが「音像定位エンハンサー」です。
お買い上げ時は、「強」に設定されています。「弱」にして効果を少し弱めることもできますが、通常は「強」のままで使うことをおすすめします。

1. **メニューボタンを押して、メニューを出す。**
2. **↑/↓で「（各種切換）」を選び、決定ボタンを押す。**
3. **↑/↓で「音像定位」を選び、決定ボタンを押す。**
4. **↑/↓で「強」または「弱」を選び、決定ボタンを押す。**
5. **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

音声を切り換える
（二重音声）

二か国語放送など二重音声放送のときに、聞きたい音声を選べます。また、ハイビジョンの音声も切り換えられます。

二重音声ボタンをくり返し押す。

押すたびに下表のように切り換わります。

二重音声

画面表示	左スピーカーの音声	右スピーカーの音声
主	主音声	主音声
副	副音声	副音声
主/副	主音声	副音声

例:「主/副」を選んだとき

VHF/UHFのステレオ放送で雑音が気になるときは

音声をモノラルにして、チャンネルごとに雑音を軽減できます。

本体のボタンを使います。

1. **雑音の多いチャンネルを映した状態で、設定ボタンを押して、設定メニューを出す。**
2. **選択⇧/⇩ボタンで「🔈(音声設定)」を選び、決定ボタンを押す。**
3. **「オートステレオ」が選ばれていることを確認して、決定ボタンを押す。**
4. **選択⇧/⇩ボタンで「切」にして、決定ボタンを押す。**
5. **設定ボタンを押して、設定メニューを消す。**

ちょっと一言

BS放送では放送内容により、以下の音質表示が画面右上に出ます。

- 「A」:Aモード（FM放送とほぼ同じ音質）を受信。
- 「B」:Bモード（Aモードより高音質でCDとほぼ同じ音質）を受信。
- 「独立」:BS5チャンネルのSt.GIGA（独立音声放送）を受信。
- 「ステレオ」:ステレオ放送を受信。（通常のテレビ放送でも表示）

なお、AモードとBモードは、番組内容に応じて放送局側が使い分けて送信するものを、本機が自動的に判別して受信するため、二重音声ボタンなどで切り換えることはできません。

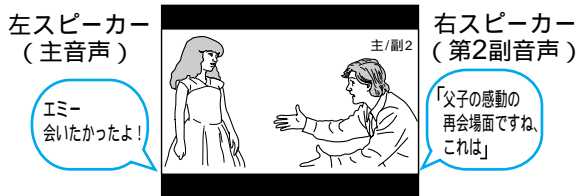
ハイビジョンの音声について

本機はハイビジョンの多重音声モードとステレオ2系統で音声を切り換えられます。

ご注意
ハイビジョンの3chステレオモードと3-1方式4chステレオモードには対応していません。

多重音声モードのとき

二重音声ボタンをくり返し押す。
押すたびに、下表のように切り換わります。

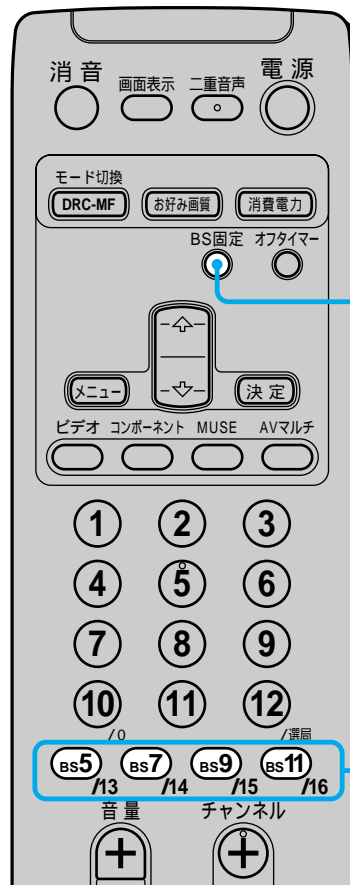
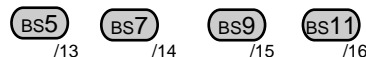
画面表示	左スピーカーの音声	右スピーカーの音声
主	主音声	主音声
副	第1副音声	第1副音声
副2	第2副音声	第2副音声
副3	第3副音声	第3副音声
主/副	主音声	第1副音声
主/副2	主音声	第2副音声
主/副3	主音声	第3副音声

例:「主/副2」を選んだとき

ステレオ2系統モードのとき

二重音声ボタンをくり返し押す。
押すたびに、「主ステレオ」または「副ステレオ」に切り換わります。

BS放送やハイビジョン放送を録画/予約録画する（BS固定）

本機内蔵のBSチューナーで、BS放送やハイビジョン放送*を本機につないでいるビデオに録画できます。また、録画するBSチャンネルを固定させて、裏録画や予約録画もできます。
あらかじめ、「ビデオをつなぐ」（☞39ページ）をしておいてください。

* ビデオには、本機内蔵のMUSE-NTSCコンバーターを通して現行の放送方式（NTSC）と同じ画質で録画されます。

1 録画したいBSチャンネルを選ぶ。

次のページにつづく

BS放送やハイビジョン放送を録画/予約録画する（つづき）

2 BS固定ボタンを押す。

本機BSチューナー部のBSチャンネルとBS/ビデオ出力端子から出る信号が固定されて、他のBSチャンネルに切り換わらなくなります。

見ながら録画するときは

BS固定したBSチャンネルで、そのままお楽しみください。他のBSチャンネルには、切り換わりません。

裏番組として録画するときは

BSを録画しながら、テレビ放送（BS放送は除く）やビデオを見ることができます。見たいチャンネルやビデオ入力などを選んでください。

3 S映像入力端子付きビデオのときは、ビデオ側で映像入力端子の信号を優先する設定にする。

ハイビジョン放送（BS9）を除くBS放送は、本機のBS/ビデオ出力の映像端子からのみ映像信号が出て、S映像端子から出ないためです。

そのため、ビデオ側でS映像入力端子の信号を優先する設定にしてあると、映像信号がビデオに入力されないため、録画できません。

ちょっと一言

ハイビジョン放送（BS9）とMUSE入力の映像は、本機のBS/ビデオ出力の映像端子とS映像端子の両方から映像信号が出ます。そのため、ハイビジョン放送（BS9）とMUSE入力を高画質で録画したいときは、ビデオ側でS映像入力端子の信号を優先する設定にしてください。

4 ビデオを「外部入力（ライン入力）」に切り換えて、録画を始める。

詳しくは、ビデオの取扱説明書をご覧ください。

予約録画するときは

ビデオで「外部入力（ライン入力）」を録画予約し、本機のリモコンでテレビの電源を切る。

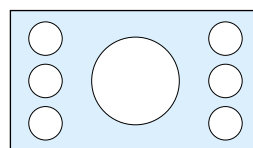
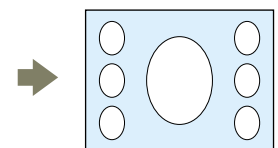
テレビの電源はスタンバイ状態になりますが、BSチューナー部の電源は48時間電源が入ったままになります（BS電源ランプが点灯）。

録画が終わったら/BS固定をやめるには

BS固定したチャンネルを選んでから、BS固定ボタンをもう1度押す。

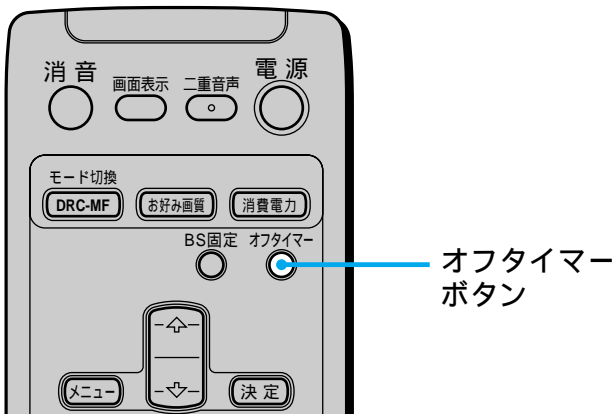
BS固定が解除され、他のBSチャンネルを選べます。

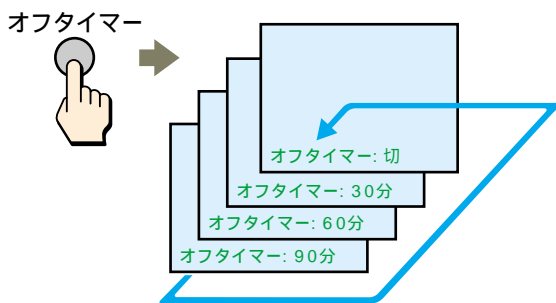
ご注意

- テレビ本体の電源スイッチで電源を切ったり、電源コードを抜いたりすると、録画できなくなります。
- WOWOWなどスクランブル放送を録画するときは、BSデコーダー（WOWOW）の電源を入れたままにしてください。
- **ハイビジョンを録画するときは、以下にご注意ください。**
  - ービデオには、本機内蔵のMUSE-NTSCコンバーターで現行の放送方式（NTSC）に変換された画像が録画されます。
  - ーハイビジョン放送（BS9チャンネル）をBS固定したときは、他のBSチャンネルとMUSE入力の画像を見ることができません。
  - ーMUSE入力の画像をBS固定したときは、ハイビジョン放送（BS9チャンネル）の画像を見ることはできません。
- **ビデオで録画したハイビジョンを再生して、本機以外のテレビで見るときは、以下にご注意ください。**
  - ーワイドテレビで見るときは、「フル」モードにすると、録画時のワイド画面で見ることができます。
  - ー「ワイドモード」機能のない他の4:3画面のテレビで見るときは、下の図のように、16:9のワイド画面を4:3に圧縮した縦長の画像になります。

ちょっと一言

St. GIGAなど独立音声放送を録音するときは、メニューの「（各種切換）」で、「TV/独立音声」を「独立」にしてください。また、BSデコーダー（WOWOW）でも独立音声を選んでください。

自動で電源を切る
（オフタイマー）

テレビをつけたまま寝てしまっても、設定した時間（30分、60分または90分）が過ぎると、自動的に電源が切れます。

オフタイマーボタンをくり返し押す。

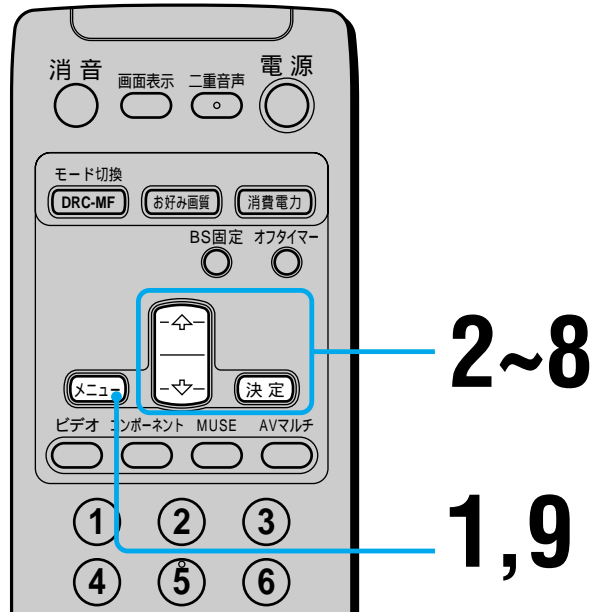
押すたびに、次のように時間が変わります。また、本体のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯します。

オフタイマーを途中でやめるには

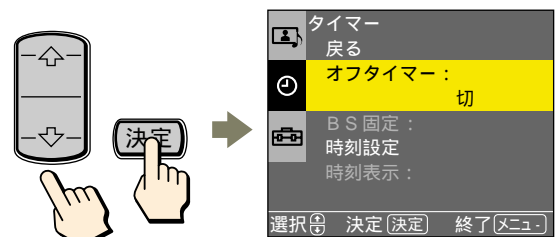
オフタイマーボタンをくり返し押して、「オフタイマー:切」を選ぶ。

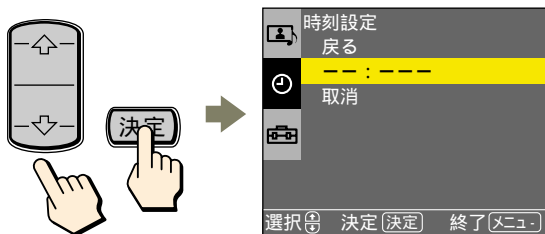
ちょっと一言

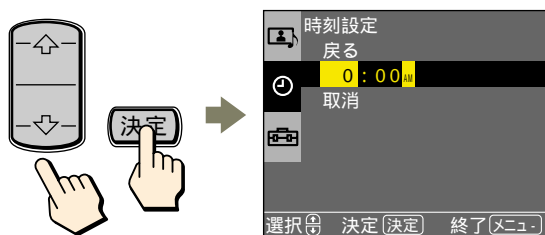
- オフタイマーが働いているときに、オフタイマーボタンを押すと、電源が切れるまでの残り時間（例:「オフタイマー:あと17分」）が表示されて、数秒後に消えます。
- 電源を入れ直したときは、「オフタイマー:切」に戻ります。
- メニュー画面でも操作できます。メニュー画面の「◴（タイマー）」から「オフタイマー」を選び、時間を選んでください。

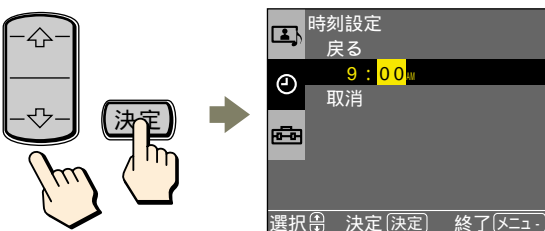
時刻を設定し表示する

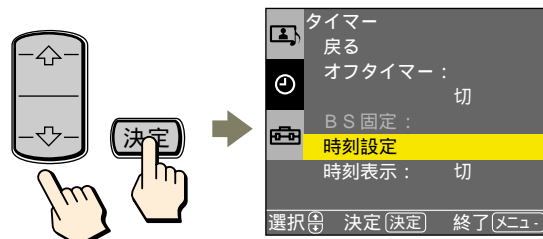
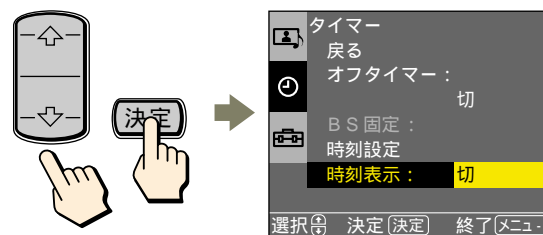
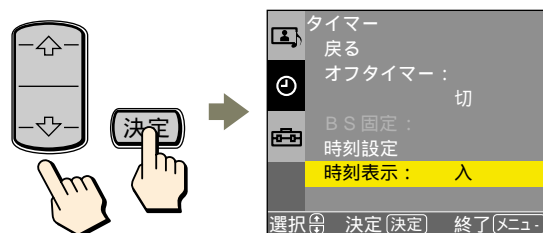
時刻を合わせて、画面に表示できます。

1 メニューボタンを押す。

2 ↑/↓で「◴（タイマー）」を選び、決定ボタンを押す。

時刻を設定し表示する（つづき）

3 ↑/↓で「時刻設定」を選び、決定ボタンを押す。

4 「−−：−−−」が選ばれていることを確認して、決定ボタンを押す。

「−−：−−−」が選ばれていないときは、↑/↓で選びます。

5 「時」を設定する。

↑/↓で数字を選び、決定ボタンを押す。
昼の12時は「0:00PM」、夜の12時は「0:00AM」と表示されます。

6 「分」を設定する。

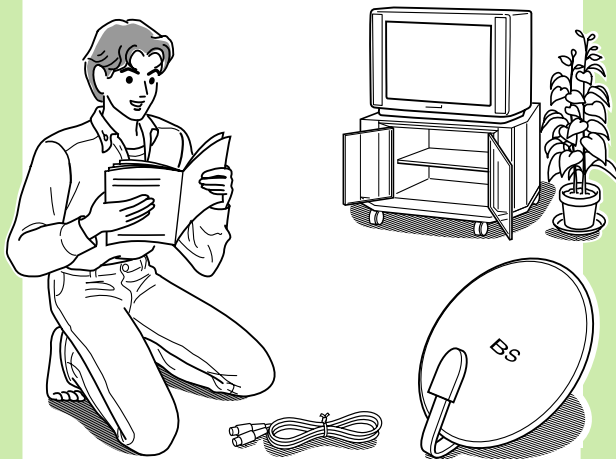
↑/↓で数字を選び、時計に合わせて決定ボタンを押す。

7 ↑/↓で「時刻表示」を選び、決定ボタンを押す。

8 ↑/↓で「入」を選び、決定ボタンを押す。

9 メニューボタンを押して、メニューを消す。

画面に時刻が表示されます。

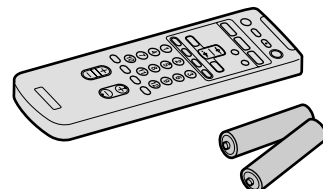
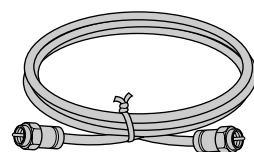
時刻の表示を消すには

「時刻を設定し表示する」（☞19ページ）の手順1、2を行った後、手順3〜6をとばして、手順8で「切」を選ぶ。

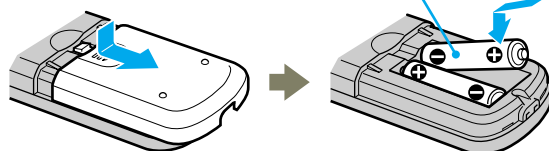
テレビの接続と準備

ここでは、テレビアンテナとBSアンテナのつなぎかた、およびチャンネル設定や、BS放送を見るための設定を説明しています。
手順1〜4（☞24〜31ページ）まで済ませれば、テレビを見ることができます。
他の機器をつないでお使いになるときは、「他機との接続」（☞36〜51ページ）をご覧ください。

付属品を確かめる

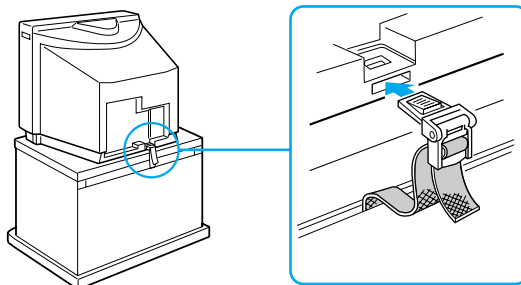
箱を開けたら、付属品がそろっているか確かめてください。

リモコン（1個）と
単3形乾電池（2個）

アンテナ接続ケーブル
（約1.5m:1本）

取扱説明書
安全のために
安全点検のおすすめ
ソニーご相談窓口のご案内
保証書
（各1部）

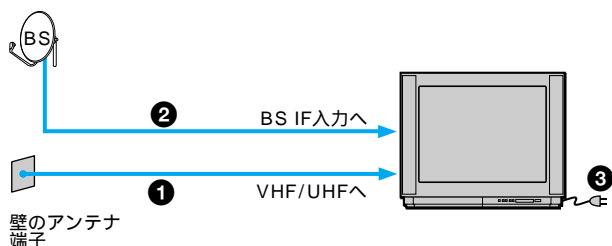
リモコンに電池を入れるには

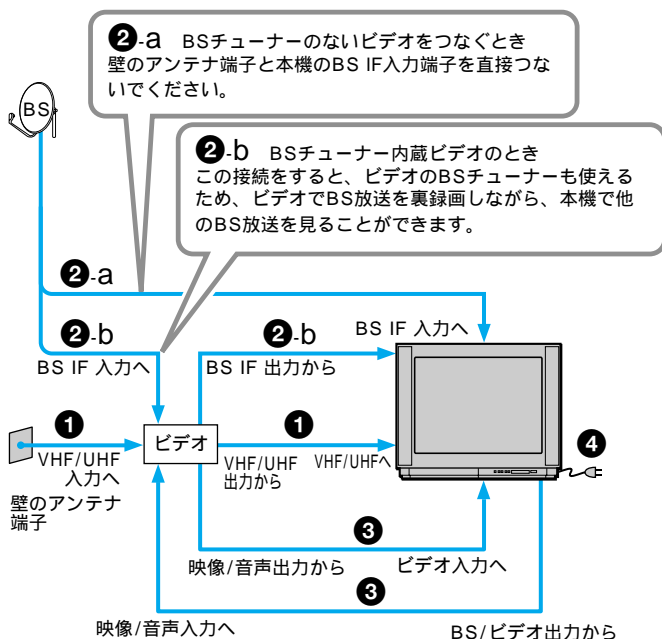
必ずイラストのように⊖極側から電池を入れてください。

テレビの転倒を防ぐために

お子様が、テレビスタンドに載せた本機に登ったり、本機を押したりすると、テレビスタンドから本機が落ちる恐れがあります。
必ず下記を使って、転倒を防いでください。
- テレビスタンド固定ベルト（別売り）
  BLT-R10
- 固定ベルト付属のテレビスタンド（別売り）
  KV-29DRX5: SU-F200P、SU-F200、SU-28V
  KV-34DRX5: SU-F300P、SU-F300

テレビの接続と準備

接続と準備の早わかり

接続と準備のしかたは、放送の種類や接続する機器によって異なります。
ここでは代表的な組み合わせをあげていますので、参考にしてください。詳しくは（ ）内のページ、および接続するビデオなどの取扱説明書もあわせてご覧ください。
BSアンテナの接続およびBS受信の設定は、BS放送を受信しないときは不要です。

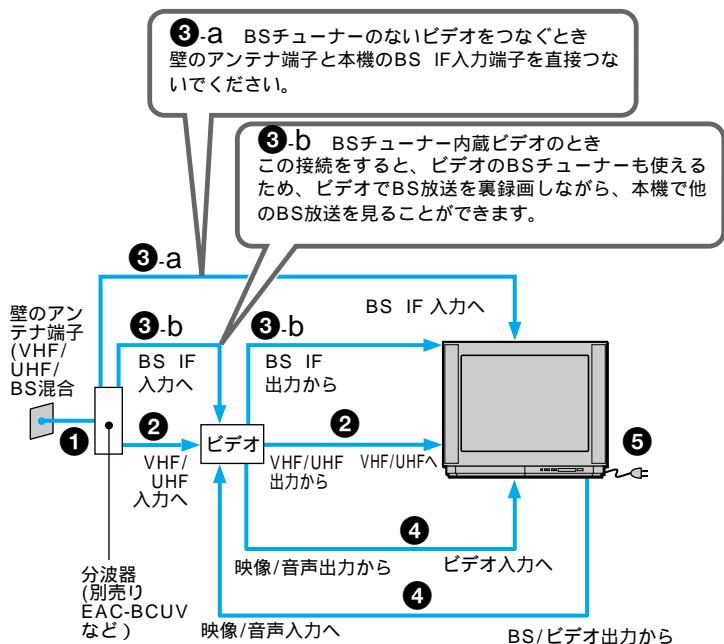
テレビ

❶ テレビアンテナをつなぐ（☞24ページ）
❷ BSアンテナをつなぐ（☞26ページ）
❸ 電源コードをつなぐ
❹ テレビチャンネルを設定する（☞27ページ）
❺ BS受信の設定をする（☞30ページ）

テレビ＋ビデオ

❶ テレビアンテナを、ビデオを経由してテレビにつなぐ（☞39〜42ページ、およびビデオの取扱説明書）
❷ BSアンテナをつなぐ
　❷-a　BSチューナーのないビデオのとき:
　　BSアンテナをテレビにつなぐ（☞26ページ）
　❷-b　BSチューナー内蔵ビデオのとき:
　　BSアンテナをビデオを経由してテレビにつなぐ（☞26ページ、およびビデオの取扱説明書）
❸ ビデオをつなぐ（☞39〜42ページ）
❹ 電源コードをつなぐ
❺ テレビチャンネルを設定する（☞27ページ）
❻ BS受信の設定をする（☞30ページ）

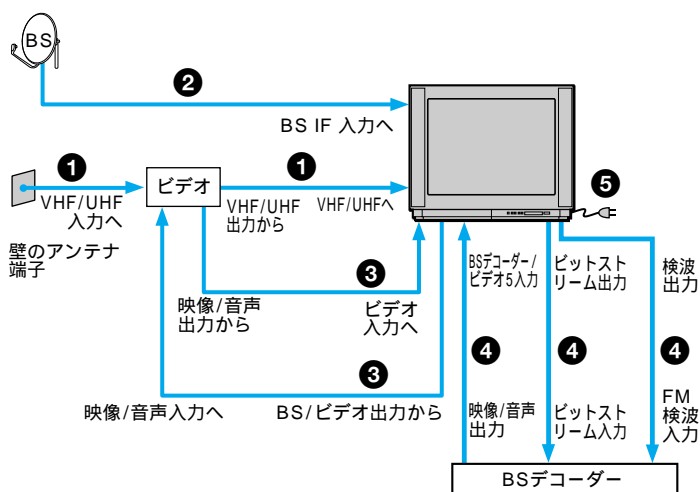
マンションなどの共同受信システム*1

*1 壁のアンテナ端子ひとつでVHF/UHFとBSの両方を受信できる、マンションなどの共同住宅に多いシステムです。

❶ 分波器を使って、VHF/UHFとBSを分ける（☞25ページ）
❷ VHF/UHFとBSをつなぐ（☞25ページ）
❸ 電源コードをつなぐ
❹ テレビチャンネルを設定する（☞27ページ）
❺ BS受信の設定をする（☞30ページ）

マンションなどの共同受信システム*1＋ビデオ

*1 壁のアンテナ端子ひとつでVHF/UHFとBSの両方を受信できる、マンションなどの共同住宅に多いシステムです。

❶ 分波器を使って、VHF/UHFとBSを分ける（☞25ページ）
❷ テレビアンテナを、ビデオを経由してテレビにつなぐ（☞39～42ページ、およびビデオの取扱説明書）
❸ BSアンテナをつなぐ
　❸-a　BSチューナーのないビデオのとき：BSアンテナをテレビにつなぐ（☞26ページ）
　❸-b　BSチューナー内蔵ビデオのとき：BSアンテナをビデオを経由してテレビにつなぐ（☞26ページ、およびビデオの取扱説明書）
❹ ビデオをつなぐ（☞39～42ページ）
❺ 電源コードをつなぐ
❻ テレビチャンネルを設定する（☞27ページ）
❼ BS受信の設定をする（☞30ページ）

テレビ＋WOWOW＋ビデオ*2

❶ テレビアンテナをビデオを経由してからテレビにつなぐ（☞39～42ページ）
❷ BSアンテナをつなぐ（☞26ページ）
❸ ビデオをつなぐ（☞39～42ページ）
❹ BSデコーダー（WOWOW）をつなぐ（☞43～45ページ）
❺ 電源コードをつなぐ
❻ テレビチャンネルを設定する（☞27ページ）
❼ BS受信の設定をする（☞30ページ）

*2 BSチューナー内蔵ビデオのときの接続は、左の図とは異なります。「BSデコーダー（WOWOW）をつなぐ:BSチューナー内蔵ビデオのとき」（☞44ページ）の接続を行ってください。

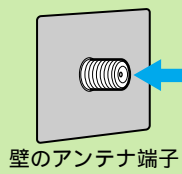
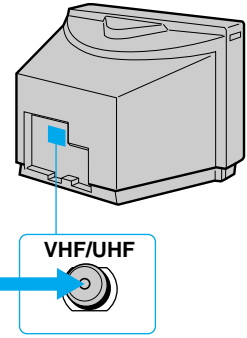
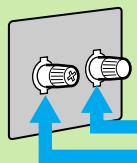
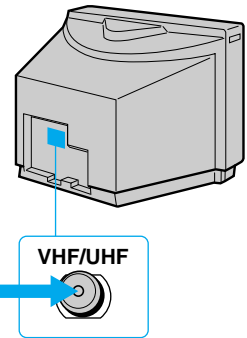
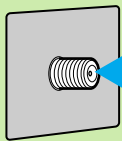
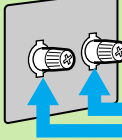
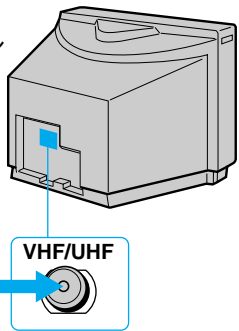
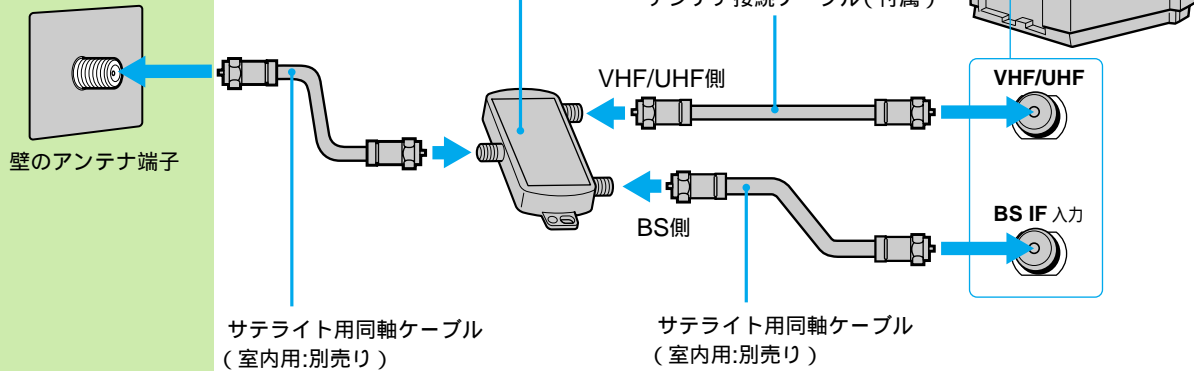
ケーブルテレビ

ケーブルシステムによって接続や準備のしかたが異なります。ケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。

テレビは壁から10cm以上離して設置してください

壁から10cm以上離して置いてください。風とおしをよくするためです。壁などに近づけ過ぎて、空気の対流が悪くなると、壁などにホコリが付着し、黒くなることがあります。また、通風孔がふさがれると、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

手順1:テレビアンテナをつなぐ

テレビアンテナのつなぎかたは、壁のアンテナ端子の形や、使うケーブルによって異なります。下の例から最も近いものを選び、つないでください。
いずれにも当てはまらない場合は、販売店などにご相談ください。

きれいな画像をお楽しみいただくために

本機には、多くのデジタル回路による新テクノロジーが搭載されています。このため、安定した画像をお楽しみいただくためにはアンテナの接続状態がとても重要です。下記のようにアンテナの接続と設置を確実に行い、妨害電波を受けにくい安定した受信状態を確保してください。

- 本機後面のVHF/UHF端子への接続は、アンテナ線がフィーダー線または同軸ケーブルのどちらであっても、**必ず付属のアンテナ接続ケーブルを使ってください。**
- アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。
- 室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。

ご注意

- フィーダー線は同軸ケーブルよりも雑音電波などの影響を受けやすいため、信号が劣化します。万が一、フィーダー線をご使用になる場合は、テレビからできるだけ離してください。
- BS IF入力端子には、必ずサテライト用同軸ケーブル（室内用:別売り）をつないでください。BS IF入力端子からはBSアンテナ用の電源（DC 15V）が供給されているため、サテライト用同軸ケーブル以外のケーブルをつなぐと、ショートして火災などの原因となります。
- サテライト分波器を使って複数のBS機器をつなぐときは、どの端子からも電源を供給するタイプ（別売りEAC-BC2またはEAC-BC4など）を必ずお使いください。特定の端子からのみBSアンテナ電源を供給するサテライト分波器を使うと、 BSチューナー内蔵ビデオでも、テレビの電源を入れないと衛星放送を録画できないなどの不都合が生じます。

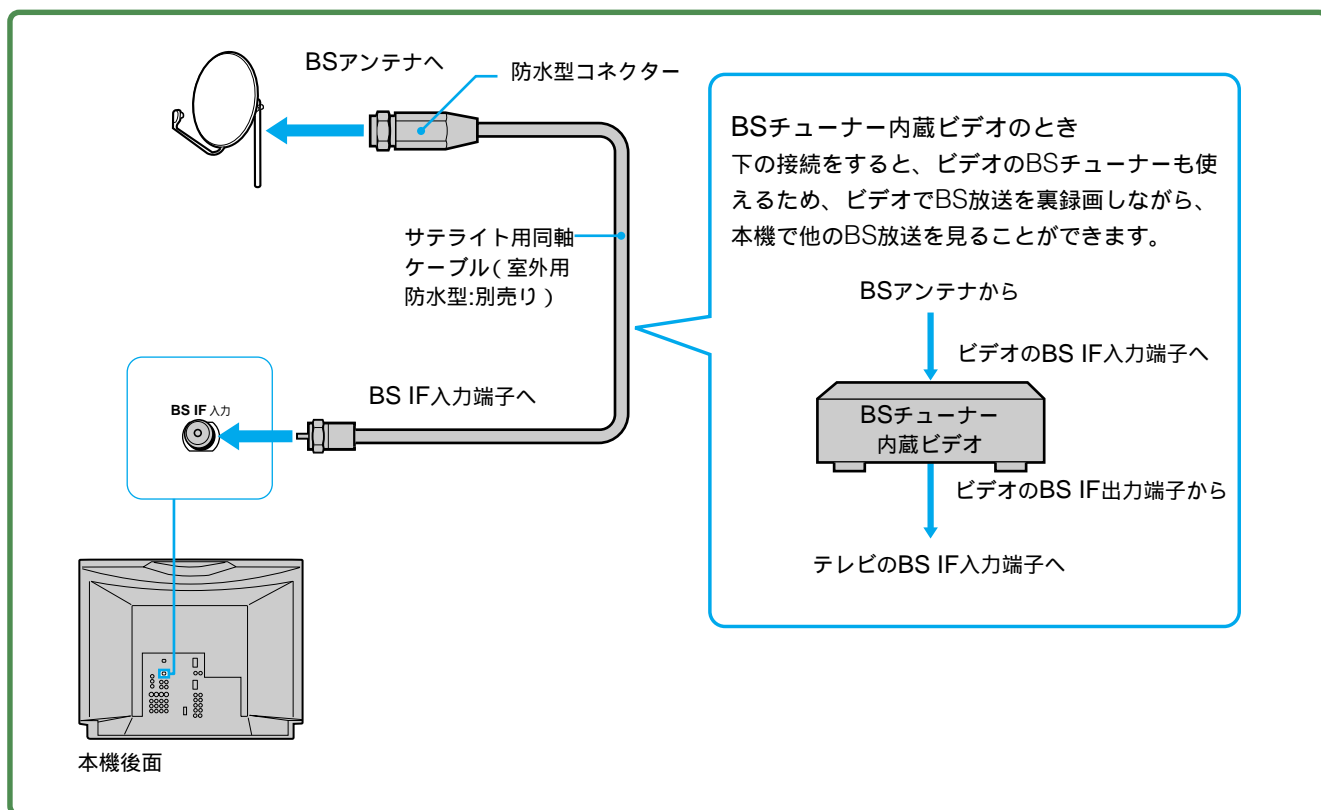
ちょっと一言

マンションなどの共同受信システムで、BS放送の受信電波が弱くノイズが出るときは、サテライトブースター（別売りBO-BC20など）をつないでください。また、設定メニューの「(BS設定)」で「BSアンテナ電源」を「切」にしてください（☞30ページ）。

テレビの接続と準備

手順2:
BSアンテナをつなぐ

BSアンテナをテレビに直接つなぎます。マンションなどの共同受信システムなどVHF/UHF/BS混合のときは、☞25ページをご覧ください。BSアンテナの設置には技術が必要なため、お買い上げ店などに依頼することをおすすめします。
WOWOWをご利用になるときは、「BSデコーダー（WOWOW）をつなぐ」（☞43ページ）もあわせてご覧ください。

ご注意

- BS IF入力端子には、必ずサテライト用同軸ケーブルをつないでください。BS IF入力端子からはBSアンテナ用の電源（DC 15V）が供給されているため、サテライト用同軸ケーブル以外のケーブルをつなぐと、ショートして火災などの原因となります。
  推奨ケーブル
  – 室外用防水型:SAK-C10/C20/C30など
- 次のようなときはBSを受信できなかったり、受信状態が悪かったりしますが、故障ではありません。
  – 雷、雨、強風などの悪天候のとき
  – BSアンテナに雪が付着しているとき
  – 強風などでアンテナの向きが変わったとき（BSアンテナの向きを調整してください。☞31ページ）
  – 春分や秋分、日食など、太陽と地球とBS衛星が並んだ（食）とき
- BS IF入力端子につないだサテライト用同軸ケーブルの芯線と端子のまわりの金属部分が触れて、ショートしないようにご注意ください。
- サテライト分波器を使って複数のBS機器をつなぐときは、どの端子からも電源を供給するタイプ（別売りEAC-BC2またはEAC-BC4など）を必ずお使いください。
  特定の端子からのみBSアンテナ電源を供給するサテライト分波器を使うと、BSチューナー内蔵ビデオでも、テレビの電源を入れないと衛星放送を録画できないなどの不都合が生じます。
- BSアンテナをつなぐときは、工具を使わずに手でしっかりと締めてください。工具を使うと、端子を傷めることがあります。

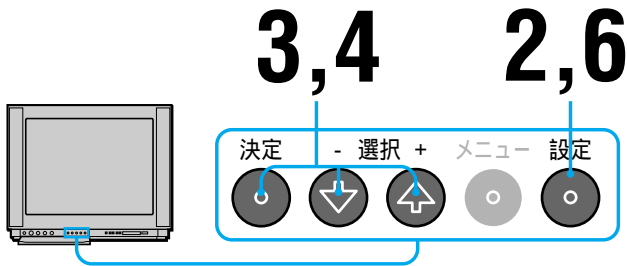
「BSアンテナ電源を確認してください」という表示が出たら

- マンションなどの共同受信システムのときは、設定メニューの「（BS設定）」で、「BSアンテナ電源」を「切」にしてから、いったんテレビの電源を切ってください（☞30ページ）。
- BSアンテナをつないでいるときは、BSアンテナのアンテナ線がショートしています。テレビ本体の電源を切って、お買い上げ店またはサービス窓口にご相談ください。

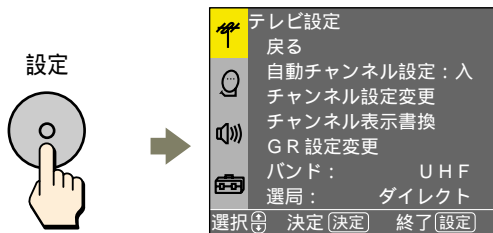
手順3:チャンネルを設定する

VHF/UHF放送は、自動でも手動でも受信設定できます。はじめに自動設定することをおすすめします。

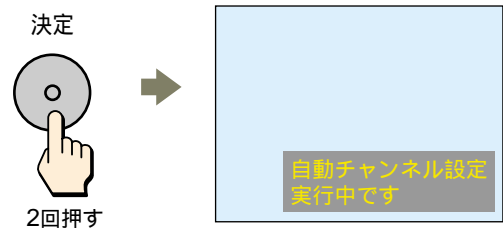
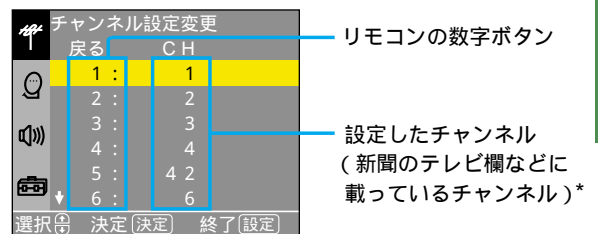
自動設定する

受信できるVHF/UHF放送を、リモコンの数字ボタンに自動的に設定します。
放送のある時間帯に行ってください。BS放送はお買い上げ時に設定されています。
自動設定したチャンネルを変更したり、放送のないチャンネルをとばすときは、☞28、29ページをご覧ください。

本体のボタンを使います。

1 電源を入れ、VHF/UHF放送を映す。

2 設定ボタンを押す。

3 「」マークが黄色になっていることを確認した後、決定ボタンを押す。

4 「自動チャンネル設定」が選ばれていて(黄色になっていて)、「入」になっていることを確認した後、決定ボタンを2回押す。

「切」になっているときは、決定ボタンを1回押した後、選択⇧/⇩ボタンで「入」を選び、決定ボタンを押す。

「自動チャンネル設定実行中です」と表示され、自動的に設定が始まります。
設定が終わると、下のメニューに変わります。

＊ 地域によっては、これまでご覧になっていたチャンネル番号と異なる場合があります。

5 設定されたチャンネルを確認する。

手動で設定し直したいときは
☞28ページをご覧ください。
ゴーストの少ない画像にしたいときは
☞33ページをご覧ください。

6 設定ボタンを押して、設定メニューを消す。

チャンネル設定を途中でやめるには

手順4で「自動チャンネル設定実行中です」のメッセージが出ている間に、設定ボタンを押す。

次のページにつづく

手順3:
チャンネルを設定する（つづき）

ケーブルテレビを見るには

ケーブルテレビ放送会社との受信契約が必要です。なお、ケーブルテレビを受信できない地域もあります。本機では、C13～C35までのケーブルテレビチャンネルを受信できます。
詳しくは、お近くのケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。

本体のボタンを使います。

1. **ダイレクト選局になっていることを確認する（☞32ページ）。**
2. **設定ボタンを押して、設定メニューを出す。**
3. **選択⇧/⇩ボタンで「（テレビ設定）」を選び、決定ボタンを押す。**
4. **選択⇧/⇩ボタンで「バンド」を選び、決定ボタンを押す。**
5. **選択⇧/⇩ボタンで「CATV」を選び、決定ボタンを押す。**
6. **選択⇧/⇩ボタンで「チャンネル設定変更」を選び、決定ボタンを押す。**
7. **選択⇧/⇩ボタンでケーブルテレビを映したいリモコンの数字ボタンを選び、決定ボタンを押す。**
8. **選択⇧/⇩ボタンで「CH」の数字をケーブルテレビのチャンネルにし、決定ボタンを押す。**
   ケーブルテレビのチャンネルには、表示の前に「C」がつきます。
   例:C24
9. **設定ボタンを押して、設定メニューを消す。**

ご注意

- ケーブルテレビとUHF放送を同時に受信したり、チャンネル設定したりすることはできません。
- ケーブルテレビで「10キー選局」（☞32ページ）をするときは、上記で受信設定をした後、「10キー選局」に切り換えてください。

手動設定する

自動設定したチャンネルを変えたり、表示を書き換えたり、放送のないチャンネルをとばすことができます。
1～12のチャンネル数字ボタンと、BS5、7、9、11のBSチャンネルボタンの合計16チャンネルのすべてを、手動で設定できます。

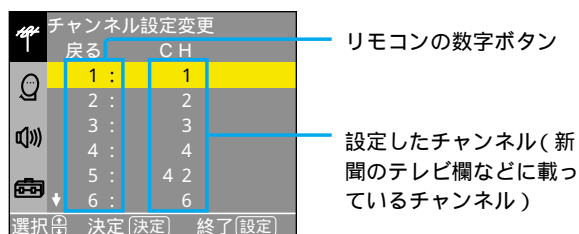
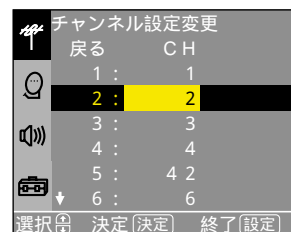
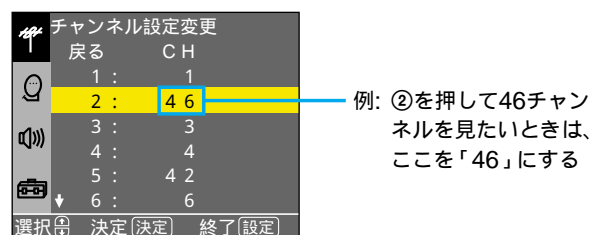
ご注意

BS5、7、9、11ボタンは、ボタン名と同じBSチャンネル用としてだけでなく、13、14、15、16チャンネルボタンとしても使えます。ただし、ボタン名と異なる他のチャンネルに設定し直すと、各ボタンを押しても、BS5、7、9、11チャンネルを直接選局できなくなります。

リモコンの数字ボタンに設定したチャンネルを変えるには

リモコンの数字ボタンに好きなチャンネルが映るように変えられます。

本体のボタンを使います。

1. **設定ボタンを押して、設定メニューを出す。**
2. **選択⇧/⇩ボタンで「（テレビ設定）」を選び、決定ボタンを押す。**
3. **選択⇧/⇩ボタンで「チャンネル設定変更」を選び、決定ボタンを押す。**

4. **選択⇧/⇩ボタンで変更したいリモコンの数字ボタンを選び、決定ボタンを押す。**

5. **選択⇧/⇩ボタンで設定したチャンネルを変更し、決定ボタンを押す。**

6. **設定ボタンを押して、設定メニューを消す。**

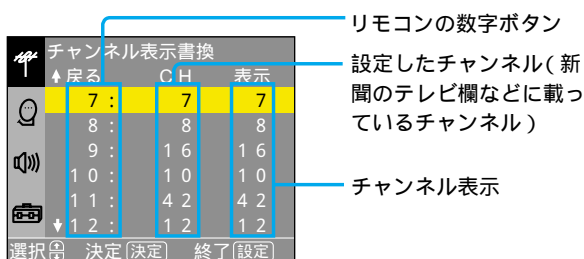
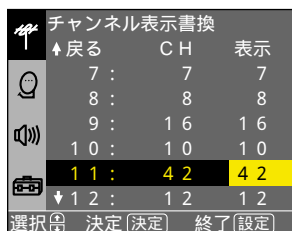
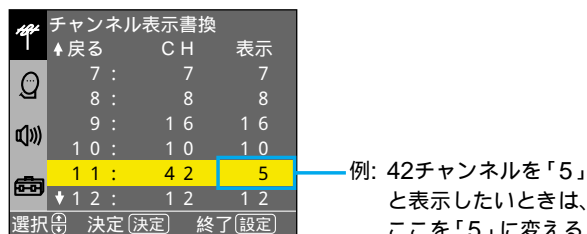
チャンネル表示を書き換えるには

画面に出るチャンネル表示は、新聞のテレビ欄などに載っているチャンネルになっています。これを、好きなチャンネル番号などに書き換えることができます。

本体のボタンを使います。

1 設定ボタンを押して、設定メニューを出す。

2 選択⇧/⇩ボタンで「(テレビ設定)」を選び、決定ボタンを押す。

3 選択⇧/⇩ボタンで「チャンネル表示書換」を選び、決定ボタンを押す。

4 選択⇧/⇩ボタンで書き換えたいチャンネルを選び、決定ボタンを押す。

5 選択⇧/⇩ボタンでチャンネル表示を書き換え、決定ボタンを押す。

6 設定ボタンを押して、設定メニューを消す。

ちょっと一言

- チャンネルと表示が1対1で対応するように、チャンネル表示を書き換えてください。複数のチャンネルを同一のチャンネル表示にすることもできますが、おすすめしません。
- BS放送のチャンネル表示は書き換えられません。

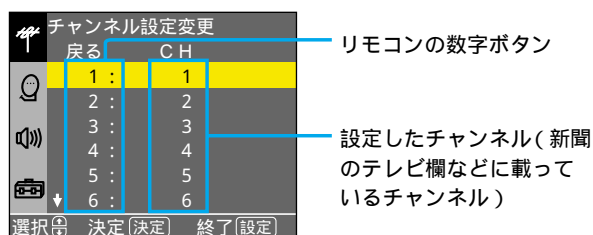
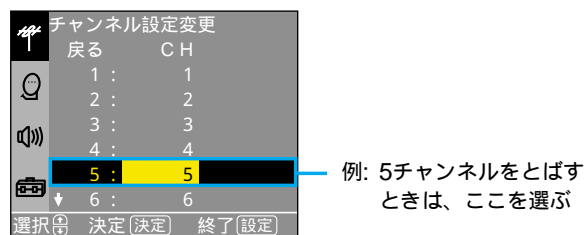
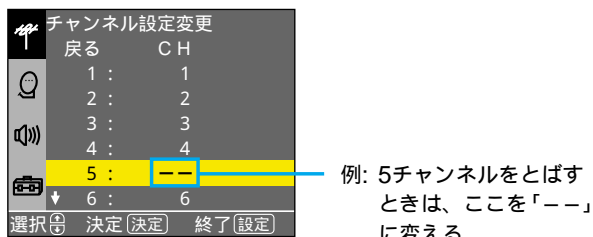
放送のないチャンネルをとばすには

チャンネル＋/－ボタンでチャンネルを選ぶときに、放送のないチャンネルをとばす（選局しない）ように設定できます。

本体のボタンを使います。

1 設定ボタンを押して、設定メニューを出す。

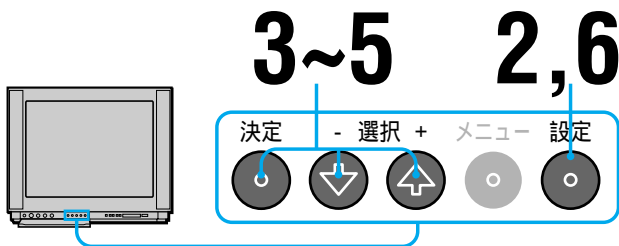
2 選択⇧/⇩ボタンで「(テレビ設定)」を選び、決定ボタンを押す。

3 選択⇧/⇩ボタンで「チャンネル設定変更」を選び、決定ボタンを押す。

4 選択⇧/⇩ボタンでとばしたいチャンネルを選び、決定ボタンを押す。

5 選択⇧/⇩ボタンで「CH」を「– –」に変えて、決定ボタンを押す。

6 設定ボタンを押して、設定メニューを消す。

手順4:
BS受信の設定をする

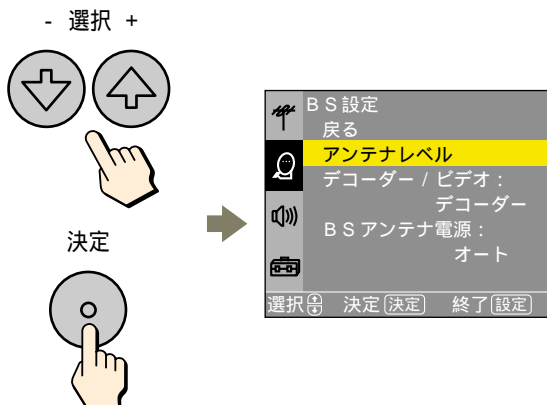
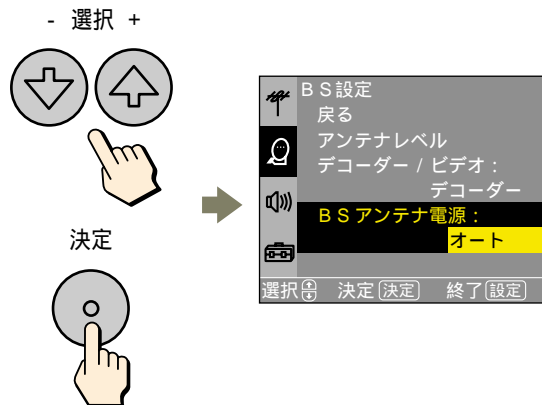
BS放送を見るときは、BSアンテナ電源の設定と、BSアンテナの向きを調整してください。

BSアンテナ電源を設定する

BSアンテナのつなぎかた（マンションなどの共同受信システムか、テレビなどに直接つないでいるかなど）に合わせて、BSアンテナへの電源供給を設定します。

本体のボタンを使います。

1 電源を入れ、BS放送を映す。

2 設定ボタンを押す。

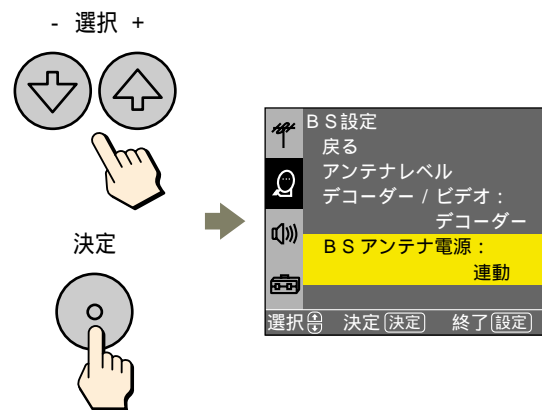
3 選択⇧/⇩ボタンで「(BS設定)」を選び、決定ボタンを押す。

4 選択⇧/⇩ボタンで「BSアンテナ電源」を選び、決定ボタンを押す。

5 マンションなどの共同受信システムのときは

選択⇧/⇩ボタンで「切」を選び、決定ボタンを押す。

BSアンテナをつないでいるときは

選択⇧/⇩ボタンで「オート」または「連動」を選び、決定ボタンを押す。

設定	BSアンテナへの電源供給のしかた
●オート	テレビの電源が入っているときに、テレビがBSアンテナに電源を供給するかどうかを自動的に判断する。テレビの電源が切れているときは供給しない。
連動	テレビの電源が入っているときはつねに電源を供給する。テレビの電源が切れているときは供給しない。BSが映ったり消えたりするときに選んでください。
切	電源を供給しない。

●：お買い上げ時の設定

6 設定ボタンを押して、設定メニューを消す。

ご注意

- 「オート」にしていても、BSアンテナの電源供給システムによっては、うまく働かないことがあります。このときは「連動」にしてください。
- 1本のBSアンテナに分波器などをつないでBS電波を分け、本機と他のテレビやビデオ機器の両方でBSを受信できるようにしているときは、本機を「オート」に、他の機器を「連動」にしてください。このようにしないと、本機の電源を切ると他のテレビやビデオ機器からBSアンテナに電源が供給されないことがあります。他の機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

BSアンテナの向きを調整する

BSアンテナをテレビに直接つないだときは、アンテナの向きを2人で調整します。1人がテレビ画面の画像とレベル表示を見て、もう1人がレベル表示が最大になるように、BSアンテナを動かしながら調整します。
向きや角度については、BSアンテナの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

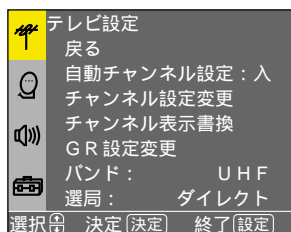
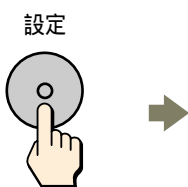
「BSアンテナ電源」が「切」になっているときは、「BSアンテナ電源」を「オート」または「連動」にしてください（☞30ページ）。

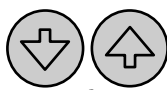
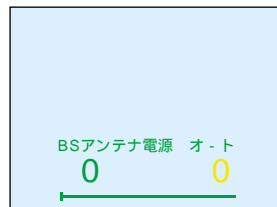
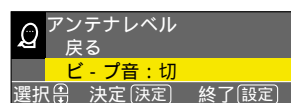
本体のボタンを使います。

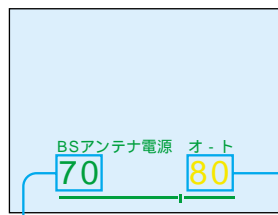
1 電源を入れ、BS放送を映す。

2 設定ボタンを押す。

設定

テレビ設定
戻る
自動チャンネル設定：入
チャンネル設定変更
チャンネル表示書換
ＧＲ設定変更
バンド：　ＵＨＦ
選局：　ダイレクト
選択 決定［決定］ 終了［設定］

3 選択⇧/⇩ボタンで「（BS設定）」を選び、決定ボタンを押す。

4 選択⇧/⇩ボタンで「アンテナレベル」を選び、決定ボタンを押す。

5 BSアンテナを動かして調整する。

受信中のアンテナレベルが最大値と一致、または一番近づいたところでBSアンテナを固定します。

6 設定ボタンを押して、設定メニューを消す。

音を聞いて調整するには

画面で確認できないときに便利です。

1 手順4のあと、選択⇧/⇩ボタンで「ビープ音」を選び、決定ボタンを押す。
2 選択⇧/⇩ボタンで「入」を選び、決定ボタンを押す。
3 手順5で連続した最大音になるよう、BSアンテナを調整する。

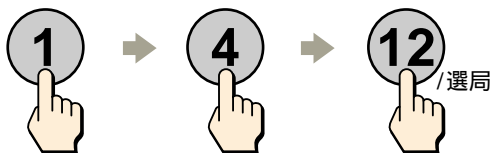
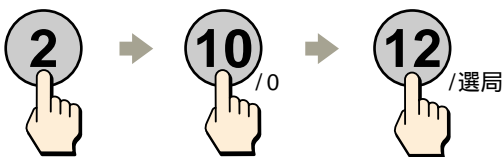
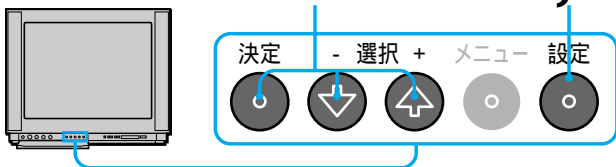
ちょっと一言

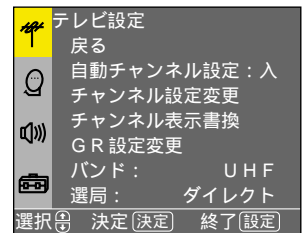
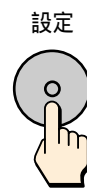
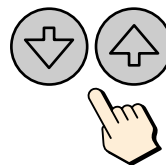
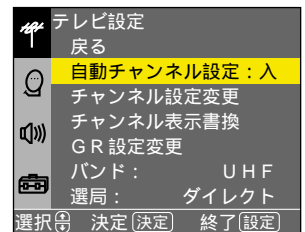
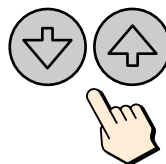
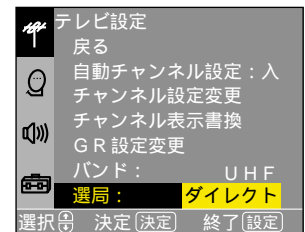
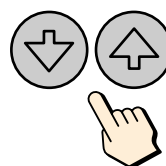
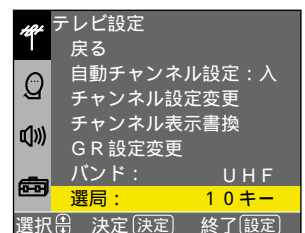
1つのBSチャンネルで調整すれば、他のBSチャンネルの調整は不要です。

数字ボタンの組み合わせでチャンネルを選ぶ（10キー選局）

お買い上げ時は「ダイレクト選局」になっています。「ダイレクト選局」は、リモコンの数字ボタンと同じチャンネルが映る選局方法で、受信できるチャンネル数は最大16局です。
そのため、ケーブルテレビなど見たいチャンネルの数が16局を越えるときは、「10キー選局」に変えてください。
「10キー選局」では、数字ボタンを十の位・一の位の順に押した後、⑫（＝選局）ボタンを押して、チャンネルを選びます。0は⑩ボタンを使います。

ちょっと一言
BS放送は、「10キー選局」に変えても、リモコンのBS5～11ボタンを押して、直接選べます。

例） 14**チャンネル**

20**チャンネル**

2~4　1,5

本体のボタンを使います。

1 設定ボタンを押す。

2 選択⇧/⇩ボタンで「（テレビ設定）」を選び、決定ボタンを押す。

3 選択⇧/⇩ボタンで「選局」を選び、決定ボタンを押す。

4 選択⇧/⇩ボタンで「10キー」を選び、決定ボタンを押す。

5 設定ボタンを押して、設定メニューを消す。

ダイレクト選局に戻すには

手順4で「ダイレクト」を選ぶ。

ご注意

- チャンネルを自動設定する（☞27ページ）ときは、ダイレクト選局に戻してから行ってください。
- ケーブルテレビのときは、手順2（☞32ページ）の後に下記の操作をした後、手順3以降を行ってください。
  1 選択⇧/⇩ボタンで「バンド」を選び、決定ボタンを押す。
  2 選択⇧/⇩ボタンで「CATV」を選び、決定ボタンを押す。
  3 手順3以降を行う。

チャンネル＋/－ボタンで選ぶ放送を設定するには

お買い上げ時は1～12チャンネルとBS5、BS7、BS9、BS11が順に選ばれるように設定されています。ケーブルテレビなどでこれ以外のチャンネルを選ぶときや、放送がないチャンネルをとばすときは、次のように設定します。

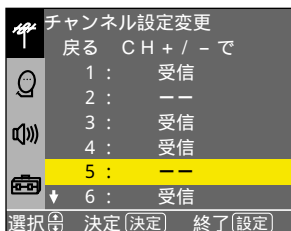
本体のボタンを使います。

1 設定ボタンを押して、設定メニューを出す。

2 選択⇧/⇩ボタンで「（テレビ設定）」を選び、決定ボタンを押す。

3 選択⇧/⇩ボタンで「チャンネル設定変更」を選び、決定ボタンを押す。

4 選択⇧/⇩ボタンで見たいチャンネル、またはとばしたいチャンネルを選び、決定ボタンを押す。

5 選択⇧/⇩ボタンで見たいチャンネルのときは「受信」を、とばしたいチャンネルのときは「– –」を選び、決定ボタンを押す。

6 複数のチャンネルを設定するときは、手順4と5をくり返す。

7 設定ボタンを押して、設定メニューを消す。

ゴーストの少ない画像にする

（ゴースト・リダクション）

本機では、建物や地形などによる妨害波で起こるゴーストを、放送局から送信されるゴースト除去基準信号を感知して、少なくする（リダクション）ように、チャンネルごとに設定できます。
「GR」はゴースト・リダクションの略です。

ご注意

- BS放送にはゴースト除去基準信号が含まれていないため、設定できません。
- ビデオ機器の再生画像などテレビにつないだ機器の映像に対しても設定できません。

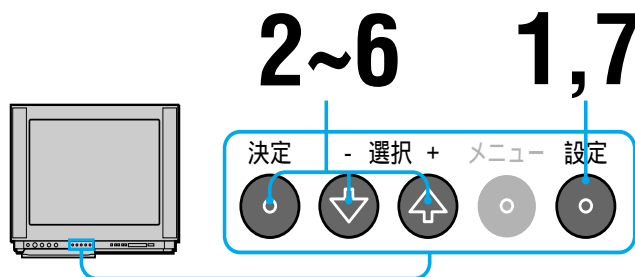
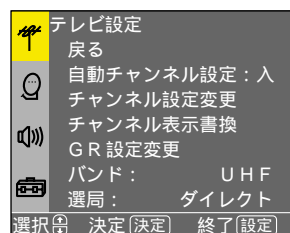
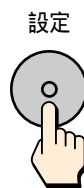
本体のボタンを使います。

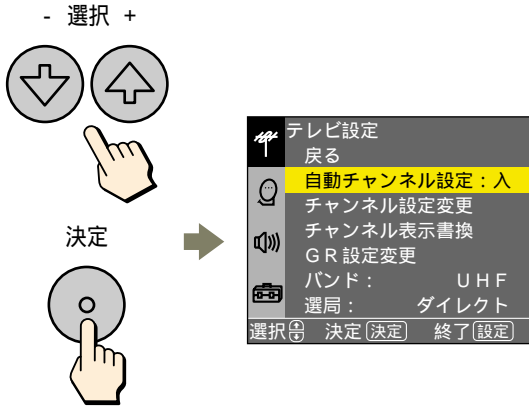
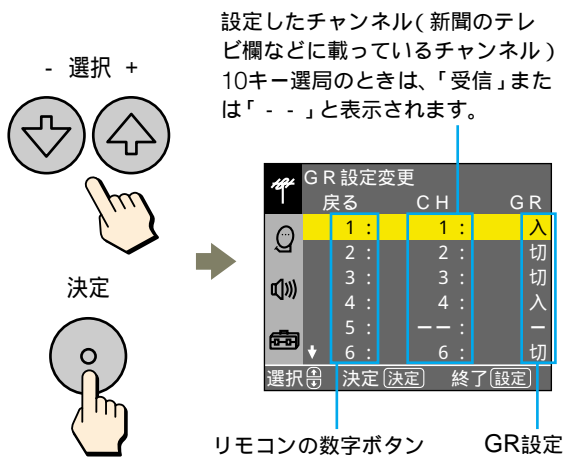
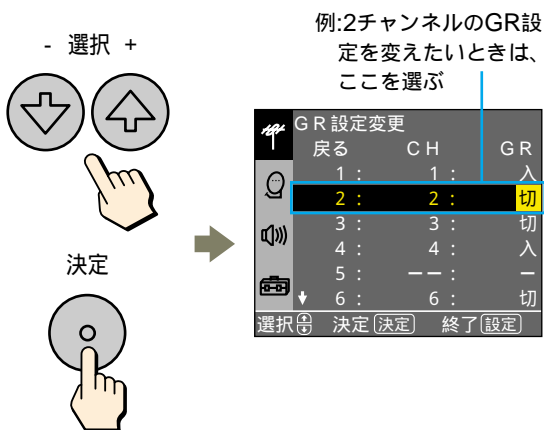
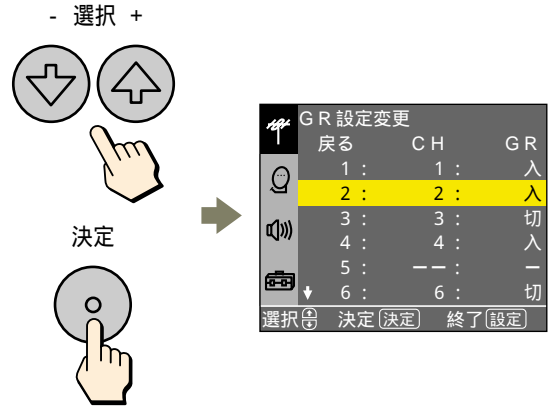
1 設定ボタンを押す。

設定

テレビ設定
戻る
自動チャンネル設定：入
チャンネル設定変更
チャンネル表示書換
ＧＲ設定変更
バンド：　ＵＨＦ
選局：　ダイレクト
選択　決定 決定　終了 設定

テレビの接続と準備

次のページにつづく

ゴーストの少ない画像にする（つづき）

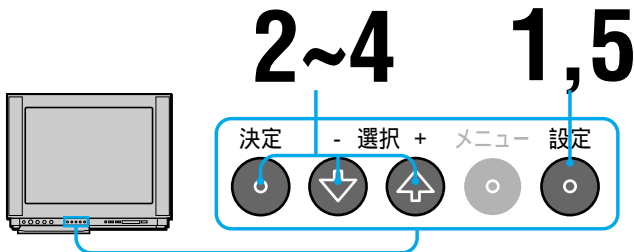
2 **選択⇧/⇩ボタンで「 (テレビ設定)」を選び、決定ボタンを押す。**

3 **選択⇧/⇩ボタンで「GR設定変更」を選び、決定ボタンを押す。**

4 **選択⇧/⇩ボタンで設定を変えたいチャンネルを選び、決定ボタンを押す。**

5 **選択⇧/⇩ボタンで「入」または「切」を選び、決定ボタンを押す。**

6 **複数のチャンネルを設定するときは、手順4と5をくり返す。**

7 **設定ボタンを押して、設定メニューを消す。**

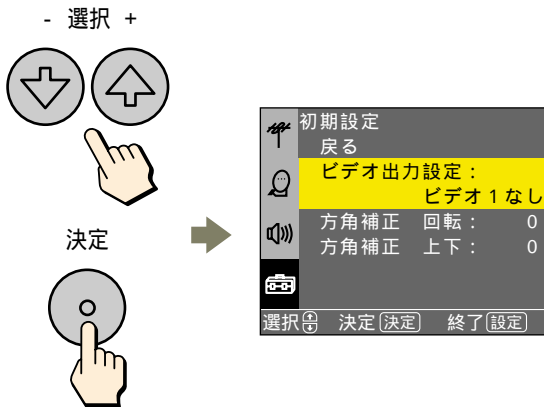
ご注意

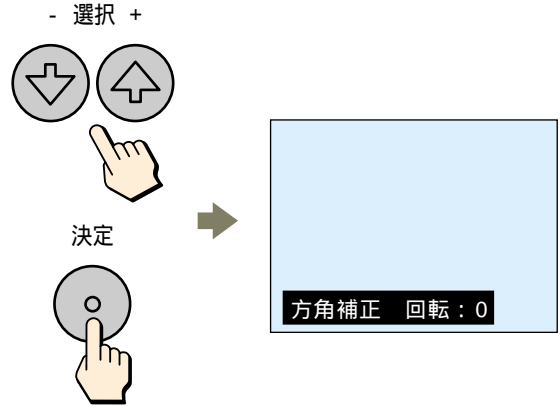
- ゴースト・リダクションは、チャンネルを切り換えた後、数秒してから働き、大きなゴーストから順々に少なくしていきます。このとき、画像が一瞬またたくことがあります。
- 受信している電波が弱いときは、大きなゴーストに働くと別のゴーストが起きることがありますが、徐々に少なくしていきます。
- アンテナの設置や調整のときは「GR」を「切」にすると、ゴーストの少ない方向を確認できます。
- 次のときは効果が十分に出ないため、「GR」を「切」にしてください。
  - ゴーストが大きすぎるとき
  - ゴーストが同時に10波以上起きているとき
  - 飛行機に反射して起きるゴーストなど、一定でないゴーストのとき
  - 室内アンテナなどアンテナの設置や調整が適切に行われていないとき

画像の傾きを補正する

地磁気の影響で、画像が傾いたり、画面の上下位置がずれることがあります。このときは、テレビの向きを変えてみるか、次のように補正してください。

本体のボタンを使います。

1 設定ボタンを押す。

2 選択⇧/⇩ボタンで「（初期設定）」を選び、決定ボタンを押す。

3 選択⇧/⇩ボタンで「方角補正　回転」または「方角補正　上下」を選び、決定ボタンを押す。

画像が傾いているときは「方角補正　回転」を、画面の上下位置がずれているときは「方角補正　上下」を選びます。

4 選択⇧/⇩ボタンで調整する。

手順3で「方角補正　回転」を選んだとき
画像を見ながら、画面内の水平の線ができる限り水平になるようにします。数値は−7～＋7の範囲で変わります。

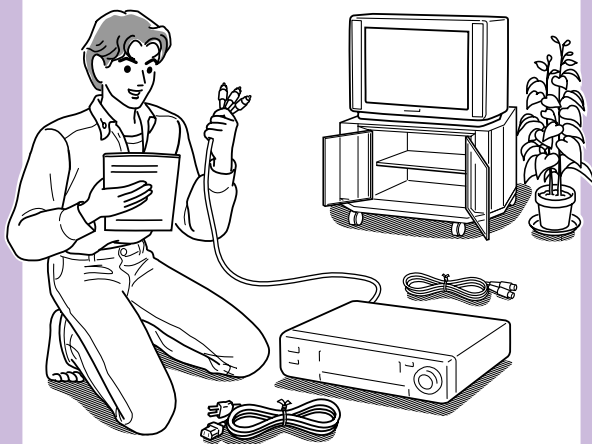
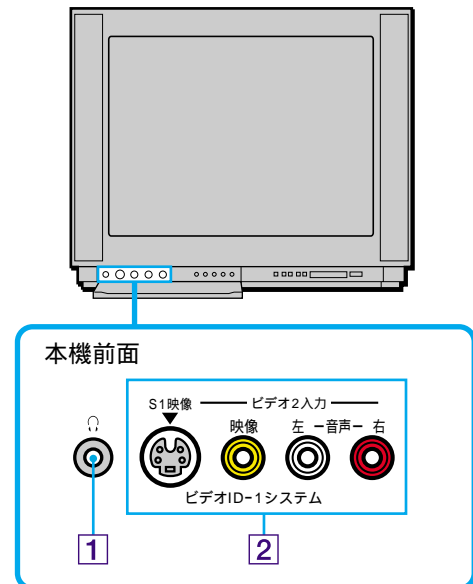
手順3で「方角補正　上下」を選んだとき
画面の上下位置を補正します。数値は−5～＋5の範囲で変わります。

5 設定ボタンを押して、設定メニューを消す。

ご注意

高圧線の近くや鉄筋コンクリート造りの家などでは、磁界の影響のため、うまく補正されないことがあります。このときは、ソニーサービス窓口またはお買い上げ店などにご相談ください。
また、テレビの近くに大きなスピーカーがあると、うまく補正されません。スピーカーからテレビを離して置いてください。
それでも、うまく補正されないときも、ご相談ください。

他機との接続

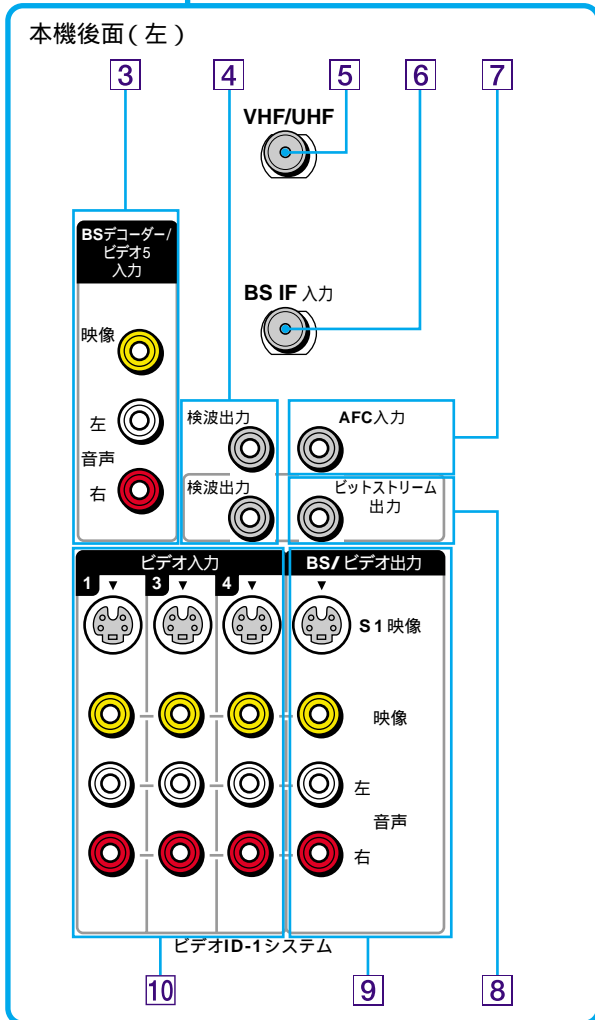
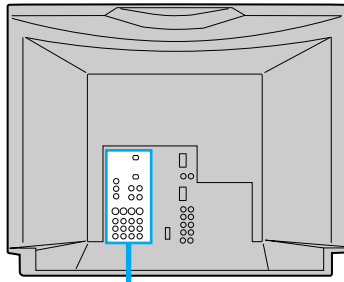
ここでは、接続端子の名前とはたらき、およびビデオデッキなど他の機器のつなぎかたについて説明しています。
テレビを見るための接続と準備については、「テレビの接続と準備」（☞21～35ページ）をご覧ください。

接続端子の名前とはたらき

☞のページに詳しい説明があります。

1 ヘッドホン端子
ヘッドホンをつなぎます。

2 ビデオ2入力端子（S1映像/映像/音声）（ID-1システム）（☞48ページ）
テレビゲームやビデオカメラレコーダーなどのビデオ出力端子につなぎます。

3 BSデコーダー/ビデオ5入力端子（映像/音声）（ID-1システム）（☞43～45ページ）
設定メニューの「(BS設定)」の「デコーダー/ビデオ」の設定によって、働きかたが異なります（☞39ページ）。

「デコーダー」に設定したとき（☞45ページ）
BSデコーダー入力端子として働きます。
BSデコーダー（WOWOW）の映像/音声出力端子につなぎます。

「ビデオ5」に設定したとき（☞39ページ）
ビデオ5入力端子として働きます。
ビデオデッキやレーザーディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなどのビデオ機器、およびデジタルCSチューナーなどのビデオ出力端子につなぎます。

☞のページに詳しい説明があります。

4 検波出力端子（☞43～45、50ページ）
BSデコーダー（WOWOW）のFM検波入力端子、またはMUSEデコーダーのBS MUSE入力端子につなぎます。

5 VHF/UHFアンテナ端子（☞24～25ページ）
VHF/UHF用のアンテナ接続ケーブルやケーブルテレビのケーブルをつなぎます。

6 BS IF入力端子（☞26ページ）
BSアンテナからの同軸ケーブルをつなぎます。BSアンテナ用の電源を供給するため、DC15Vの直流電圧が出ています。VHF/UHF用のアンテナ接続ケーブルは絶対につながないでください。

7 AFC入力端子（☞50ページ）
ハイビジョン機器のAFC出力端子につなぎます。

8 ビットストリーム出力端子（☞43～45ページ）
BSデコーダー（WOWOW）のビットストリーム入力端子につなぎます。また、将来的に考えられている新放送システムにも対応します。

9 BS/ビデオ出力端子（S1映像/映像/音声）（ID-1システム）（☞39～42ページ）
ビデオデッキなどのビデオ入力端子につなぎます。
VHF/UHF、BS、ビデオ1～5入力*、AVマルチ入力、MUSE入力の信号を出力します。
ハイビジョンは通常のテレビ放送の方式（NTSC）と同じ画質の信号で出力します。

* ただし、ビデオ1入力の信号については、設定メニューの「（初期設定）」の「ビデオ出力設定」で出力されるように設定する必要があります（☞40ページ）。
また、ビデオ5入力の信号のときは、BSデコーダー/ビデオ5入力端子をビデオ入力端子として働くように設定する必要があります（☞39ページ）。

ご注意
- BSデコーダー（WOWOW）をつないでいるときは、スクランブルを解除した信号を出力します。
- コンポーネント入力端子につないだ機器の映像信号は出力しません。

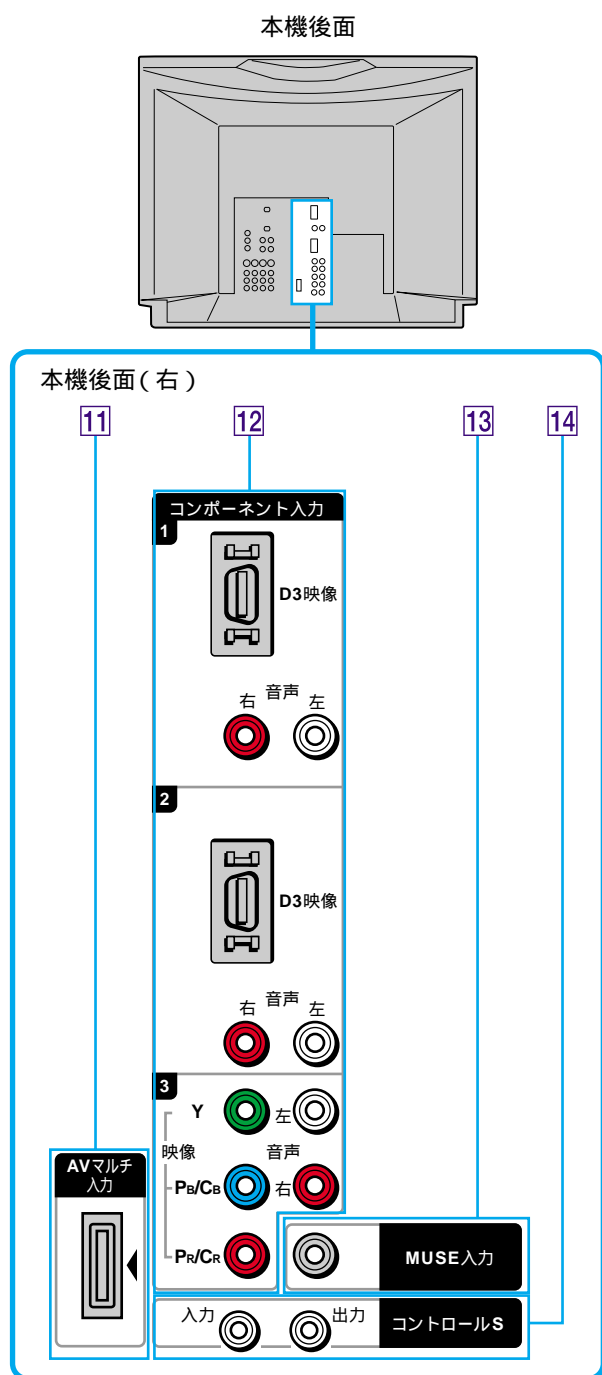
BS固定（☞17ページ）のときのご注意
以下の信号を出力します。

- **BS固定が「切」のとき**:
テレビに映っている映像と音声をS1映像出力端子と映像出力端子の両方から出力します。
- **BS固定が「入」のとき**:
テレビに映っている映像と音声には関係なく、BS固定したBSチャンネルまたはMUSE入力の映像と音声を出力します。ただし、S1映像出力端子からは、ハイビジョン放送を除いたBS放送の信号を出力しません。

10 ビデオ1、3、4入力端子（S1映像/映像/音声）（ID-1システム）（☞39～42ページ）
ビデオデッキやレーザーディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなど、ビデオ機器のビデオ出力端子につなぎます。

他機との接続

次のページにつづく

接続端子の名前とはたらき（つづき）

☞のページに詳しい説明があります。

11 AVマルチ入力端子（☞47ページ）

別売りのAVマルチケーブル（VMC-AVM250）を使って、“プレイステーション”のAVマルチ出力端子につなぎます。RGB接続になり、よりきれいな映像でゲームを楽しめます。

12 コンポーネント1、2入力端子（D3映像/音声）およびコンポーネント3入力端子（映像/音声）（☞48、50ページ）

D3映像入力端子（コンポーネント1、2入力端子）

BSデジタル放送*用の受信アダプターなど将来放送が予定されている機器のD映像出力端子につなぎます。

* BSデジタル放送の受信には、別途、受信アダプターが必要となります。

映像入力端子（コンポーネント3入力端子）

DVDプレーヤーのコンポーネントビデオ出力端子（Y/CB/CRまたは、Y/B-Y/R-Y、Y/PB/PR）、またはハイビジョン機器の映像出力端子につなぎます。

音声入力端子

コンポーネント1、2入力端子ではBSデジタル放送用の受信アダプターやビデオ機器の音声出力端子に、コンポーネント3入力端子ではDVDプレーヤーまたはハイビジョン機器の音声出力端子につなぎます。

D3映像入力端子と映像入力端子の対応信号ついて

525i（480i）と525p（480p）、1125i（1080i）の信号フォーマットに対応しています。iはインターレース、pはプログレッシブの略です。（ ）内は有効走査線数で数えたときの別称です。（☞58ページ）

コンポーネント入力端子につないだ機器の画像について（HDモード）

コンポーネント1、2入力端子では、D3映像入力端子からの識別制御信号を自動的に判別して、現行ハイビジョン放送（BS9）と将来予定されているデジタルハイビジョン（HD）放送の画像を自動的に切り換えます（「HDモード:オート」）。お買い上げ時は、「HDモード:オート」になっているため、設定を変える必要はありません。

また、 D3映像入力端子からの識別制御信号がないときの画像や、コンポーネント3入力端子につないだ機器の画像は、「HDモード:オート」のとき、有効走査線数1035本の画像で表示します。

なお、メニューの「（各種切換）」で、「HDモード」を次のように固定することもできます。

- 現行ハイビジョン放送（BS9）（有効走査線数:1035本）に固定したいときは、「HDモード:1035」にする。
- 将来予定されているデジタルハイビジョン（HD）放送（有効走査線数:1080本）に固定 したいときは、「HDモード:1080」にする。

13 MUSE入力端子（☞49ページ）

ハイビジョン・レーザーディスクプレーヤー（MUSE）のMUSE出力端子につなぎます。
本機内蔵のMUSE-NTSCコンバーターを通して通常のテレビ放送（NTSC）と同じ画質で、見ることができます。

14 コントロールS端子

入力端子

他機のコントロールS出力端子につないで、他機から本機を操作できます。

出力端子

他機のコントロールS入力端子につないで、本機にリモコンを向けて他機を操作できます。

ビデオをつなぐ

ビデオデッキ、ビデオカメラ、またはレーザーディスクプレーヤーなどをつなぎます。それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

S1映像端子と映像端子のどちらにつなぐか迷ったときは

よりよい画質でご覧いただくために、下表の端子につないでください。
つなぐ機器にS映像端子がない場合は、映像端子につなぎます。

つなぐ機器	つなぐ端子
テレビチューナー BSチューナー	映像
レーザーディスクプレーヤー *1	映像
ビデオデッキ*2 ビデオカメラの再生	S1映像
デジタルCSチューナー	S1映像
DVDプレーヤー*3	S1映像
テレビゲーム	S1映像

*1 三次元Y/C分離回路搭載のレーザーディスクプレーヤーのときは、接続による画質の差はほとんど生じません。再生モードにはノーマルを選び、デジタルで再生しないでください。詳しくは、レーザーディスクプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
*2 TBC（タイムベースコレクター）内蔵ビデオデッキでNTSC標準信号化できる場合も含みます。
*3 コンポーネントビデオ出力端子のあるDVDプレーヤーのときは、本機のコンポーネント3入力端子につないでください（☞48ページ）。

本機ビデオ1～4入力のS1映像入力端子と映像入力端子の両方につないだときは

ビデオの映像信号をどちらの端子から入力するかを、ビデオ入力ごとにメニュー画面で設定できます。お買い上げ時は、S1映像入力端子から入力された画像が映ります。

1 ビデオボタンをくり返し押して、切り換えたいビデオ入力を選ぶ。

2 メニューボタンを押して、メニューを出す。

3 ↑/↓で「 （各種切換）」を選び、決定ボタンを押す。

4 ↑/↓で「S映像」を選び、決定ボタンを押す。

5 S1映像入力端子から入力された画像を見るときは
↑/↓で「入」を選び、決定ボタンを押す。

映像入力端子から入力された画像を見るときは
↑/↓で「切」を選び、決定ボタンを押す。

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

本機BSデコーダー/ビデオ5入力端子にビデオ機器をつなぐときは

ビデオ5入力端子として働くように、以下の設定をしてください。
本体のボタンを使います。

1 設定ボタンを押して、設定メニューを出す。

2 選択⇧/⇩ボタンで「 （BS設定）」を選び、決定ボタンを押す。

3 選択⇧/⇩ボタンで「デコーダー/ビデオ」を選び、決定ボタンを押す。

4 選択⇧/⇩ボタンで「ビデオ5」を選び、決定ボタンを押す。

5 設定ボタンを押して、設定メニューを消す。

他機との接続

次のページにつづく

ビデオ1入力の信号をBS/ビデオ出力端子から出力するときは

お買い上げ時は、ビデオ1入力端子につないだ機器の信号は、BS/ビデオ出力端子から出力されないようになっています。
そのため、BS/ビデオ出力端子につないだオーディオ機器などで、ビデオ1入力の音声を楽しむときなど（☞51ページ）は、以下の設定をしてください。ビデオ1入力端子につないだ機器の映像および音声がBS/ビデオ出力端子から出力されます。

本体のボタンを使います。

1. **設定ボタンを押して、設定メニューを出す。**
2. **選択⇧/⇩ボタンで「（初期設定）」を選び、決定ボタンを押す。**
3. **選択⇧/⇩ボタンで「ビデオ出力設定」を選び、決定ボタンを押す。**
4. **選択⇧/⇩ボタンで「ビデオ1あり」を選び、決定ボタンを押す。**
5. **設定ボタンを押して、設定メニューを消す。**

BSチューナーのないビデオのとき

BS放送やハイビジョン放送を録画したり（必ずBS固定にしてください☞17ページ）、ビデオ機器の再生画像を見るための接続です。
ビデオの取扱説明書もあわせてご覧ください。

本機後面

BSアンテナより（☞26ページ）

VHF/UHF

BS IF 入力

ビデオ入力

1 3 4

BS/ビデオ出力

S 1 映像

映像

左

音声

右

②

①

映像・音声コード（別売り：VMC-810Sなど）

映像・音声コード（別売り：VMC-810Sなど）

映像・音声出力端子へ

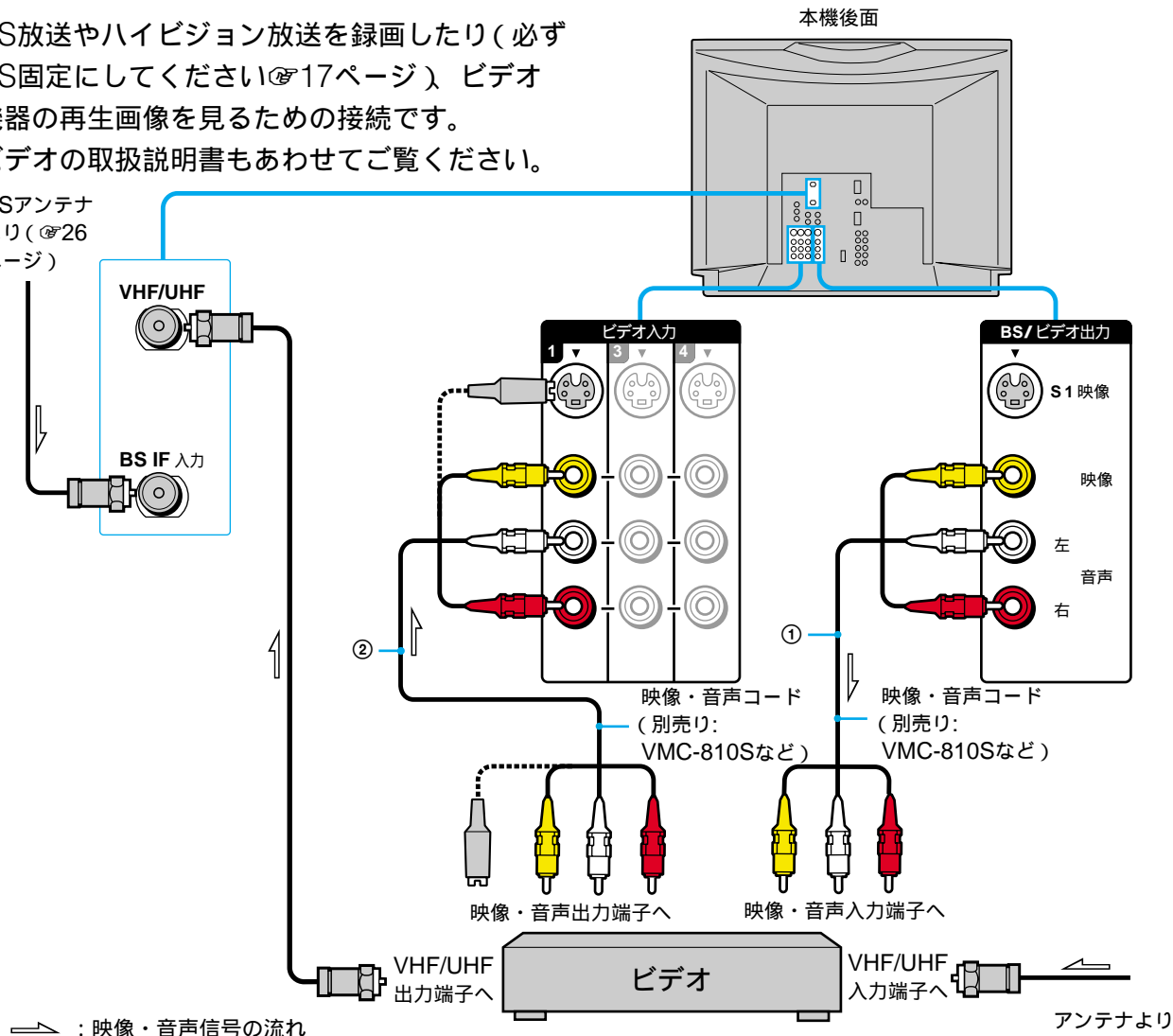
映像・音声入力端子へ

VHF/UHF 出力端子へ

ビデオ

VHF/UHF 入力端子へ

アンテナより

：映像・音声信号の流れ

①BS放送やハイビジョンをビデオに録画するための接続です（☞17ページ）。ハイビジョンをよりきれいな画像で録画するときは、必ずS映像コード（別売り:YC-10Vなど）でつないでください。

②ビデオの再生画像を見るための接続です（☞11ページ）。ビデオにS映像出力端子があるときはS映像・音声コード（別売り:YC-810Sなど）でつなぐと、よりきれいな画像を楽しめます。

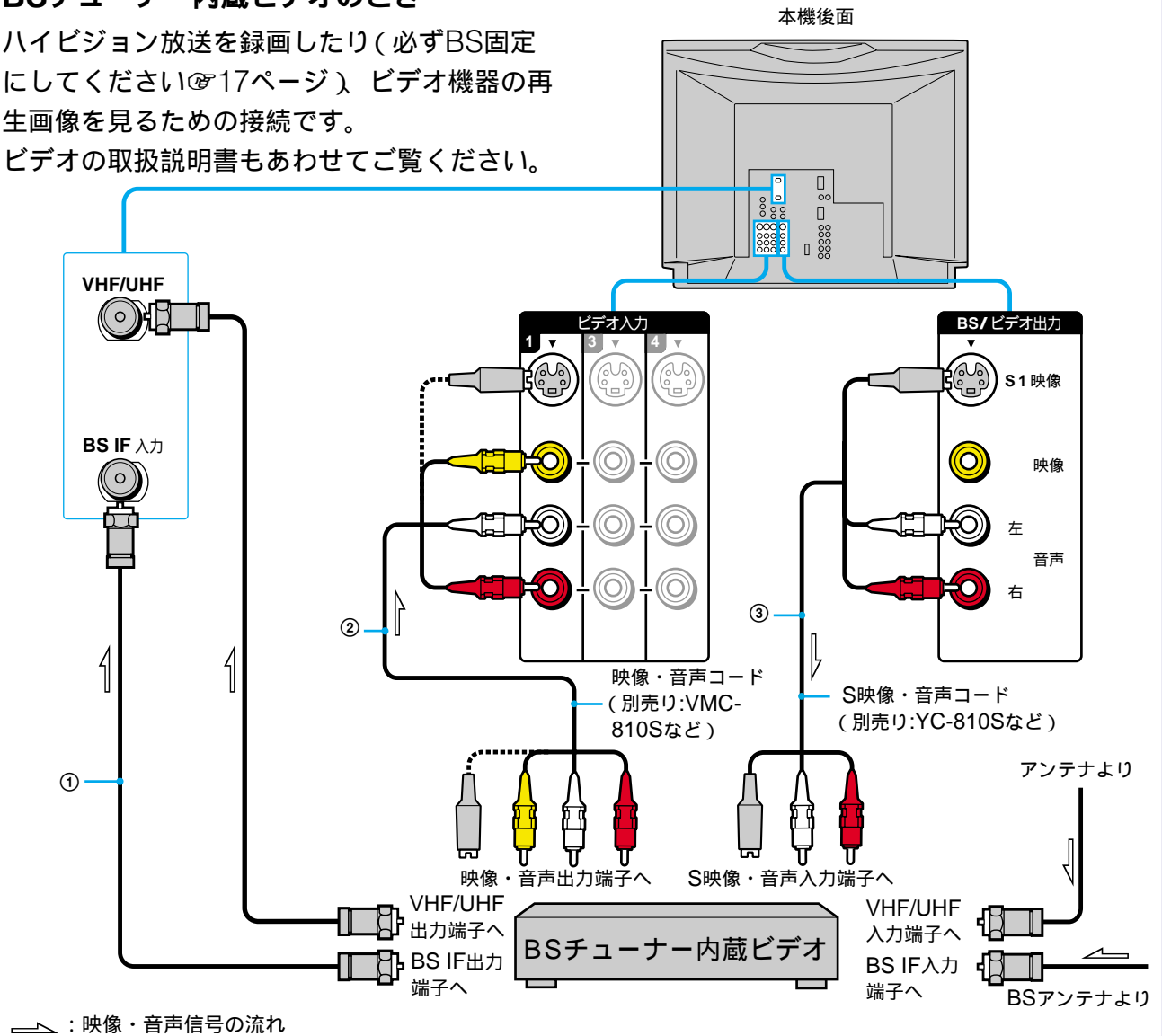
ビデオを見るには

ビデオボタンを押して、ビデオをつないだビデオ1入力（「ビデオ1」）を表示させる。
詳しくは、☞11ページをご覧ください。

ご注意

- BS放送やハイビジョンを録画するときは、BS固定をしてください（☞17ページ）。BS固定をすると、ビデオをつないだ端子のビデオ入力を選んで、録画している画像を確認し、本機で受信しているBS放送やハイビジョンがビデオに正しく録画されているかをチェックできます。
  BS固定をしないと、チャンネルを選んだときなどに、画像が乱れることがあります。
- ハイビジョン放送は本機内蔵のMUSE-NTSCコンバーターで現行のテレビ方式（NTSC）に変換して、本機のBS/ビデオ出力端子から出力します。
- テレビをモニターとして使い、ビデオなどで編集するときは、再生機をビデオ1入力を除いたビデオ2〜4入力端子、またはBSデコーダー/ビデオ5入力端子につないでください。お買い上げ時は、ビデオ1入力端子につないだ機器の信号はBS/ビデオ出力端子から出力されない設定になっているためです（☞40ページ）。

BSチューナー内蔵ビデオのとき

ハイビジョン放送を録画したり（必ずBS固定にしてください☞17ページ）、ビデオ機器の再生画像を見るための接続です。
ビデオの取扱説明書もあわせてご覧ください。

①本機とビデオの両方のBSチューナーを使うときの接続です。ビデオ内蔵のBSチューナーでBS放送を裏録画しながら、本機内蔵のBSチューナーで他のBS放送を見ることができます。

②ビデオの再生画像を見るための接続です（☞11ページ）。ビデオにS映像出力端子があるときはS映像・音声コード（別売り:YC-810Sなど）でつなぐと、よりきれいな画像を楽しめます。

③ハイビジョンをビデオに録画するための接続です（☞17ページ）。よりきれいな画像で録画するために、S映像コードでつないでください。 ビデオにS映像出力端子がないときは映像・音声コード（別売り:VMC-810Sなど）でつなぎます。
また、ハイビジョン放送以外のBS放送を録画するときは、ビデオ側でBS放送を受信し、録画してください。

ビデオを見るには

ビデオボタンをくり返し押して、ビデオをつないだビデオ1入力（「ビデオ1」）を表示させる。
詳しくは、☞11ページをご覧ください。

ご注意

- 本機内蔵のBSチューナーを使って、ハイビジョン放送を録画するときは、BS固定をしてください（☞17ページ）。BS固定をすると、ビデオをつないだ端子のビデオ入力を選んで、録画している画像を確認し、本機で受信しているハイビジョン放送がビデオに正しく録画されているかをチェックできます。BS固定をしないと、チャンネルを選んだときなどに、画像が乱れることがあります。
- ハイビジョン放送は本機内蔵のMUSE-NTSCコンバーターで現行のテレビ方式（NTSC）に変換して、本機のBS/ビデオ出力端子から出力します。
- テレビをモニターとして使い、ビデオなどで編集するときは、再生機をビデオ1入力を除いたビデオ2〜4入力端子、またはBSデコーダー/ビデオ5入力端子につないでください。お買い上げ時は、ビデオ1入力端子につないだ機器の信号はBS/ビデオ出力端子から出力されない設定になっているためです（☞40ページ）。

BSデコーダー（WOWOW）をつなぐ

WOWOWを見るには、WOWOWと受信契約が必要です。詳しくはWOWOWへお問い合わせください。WOWOWを見るには、☞45ページをご覧ください。
WOWOWと受信契約をすると送られてくるBSデコーダー（WOWOW）の取扱説明書もあわせてご覧ください。

BSチューナーのないビデオのとき

本機後面

VHF/UHF

BSアンテナより
（☞26ページ）

BS IF 入力

BSデコーダー/ビデオ5入力

映像
左
音声
右

検波出力　ビットストリーム出力

ビデオ入力　1　3　4

BS/ビデオ出力　S1映像　映像　左　音声　右

映像・音声コード
（別売り:VMC-810S
など）

BSデコーダー（WOWOW）に付属の映像コード

映像・音声コード
（別売り:VMC-810S
など）
ビデオにS映像出力端子があるときは、映像コードの代りにS映像コードでつなぐと、よりきれいな映像が楽しめます。

映像・音声コード
（別売り:
VMC-810Sなど）

映像・音声出力端子へ　検波入力端子へ　ビットストリーム入力端子へ

映像・音声出力端子へ　映像・音声入力端子へ　VHF/UHF出力端子へ

BSデコーダー(WOWOW)

ビデオデッキ

VHF/UHF入力端子へ

「検波/映像」の設定を「検波」にする

アンテナより

⇀：映像・音声信号の流れ

ご注意

- WOWOWを録画するときは、テレビ側でWOWOWを受信し、録画してください。
- WOWOWも含めたBS放送を録画するときは、BS固定をしてください（☞17ページ）。BS固定をすると、ビデオをつないだ端子のビデオ入力を選んで、録画している画像を確認し、本機で受信しているBS放送がビデオに正しく録画されているかをチェックできます。BS固定をしないと、チャンネルを選んだときなどに、画像が乱れることがあります。
- BSデコーダー（WOWOW）は、必ず本機のBSデコーダー/ビデオ5入力端子につないでください。BSデコーダー/ビデオ5入力端子以外につなぐと、チャンネルボタン（例:BS5）を押しても選局できません。

BSデコーダー（WOWOW）をつなぐ（つづき）

BSチューナー内蔵ビデオのとき

ご注意

- WOWOWを録画するときは、ビデオ側でWOWOWを受信し、録画してください。
- ソニー以外のBSチューナー内蔵ビデオデッキの中には、上記の接続でWOWOWを録画できないビデオがあります。そのときは、ビデオデッキのメーカーのお客様窓口へご相談ください。
- BSデコーダー（WOWOW）は、必ず本機のBSデコーダー/ビデオ5入力端子につないでください。BSデコーダー/ビデオ5入力端子以外につなぐと、チャンネルボタン（例:BS5）を押しても選局できません。

BSデコーダー/ビデオ5入力端子にBSデコーダー（WOWOW）をつなぐときは

お買い上げ時は、デコーダー入力端子として働くように設定されているため、**設定し直す必要はありません。**
ビデオ5入力端子としてビデオデッキなどをつないでいた代りに、新たにBSデコーダー（WOWOW）をつなぎ直したときは、設定し直してください。
本体のボタンを使います。

1 **設定ボタンを押して、設定メニューを出す。**
2 **選択⇧/⇩ボタンで「(BS設定)」を選び、決定ボタンを押す。**
3 **選択⇧/⇩ボタンで「デコーダー/ビデオ」を選び、決定ボタンを押す。**
4 **選択⇧/⇩ボタンで「デコーダー」を選び、決定ボタンを押す。**
5 **設定ボタンを押して、設定メニューを消す。**

WOWOWを見るには

BSデコーダー（WOWOW）の電源を入れて、本機リモコンのBS5ボタンを押す。

St.GIGAを聞くには

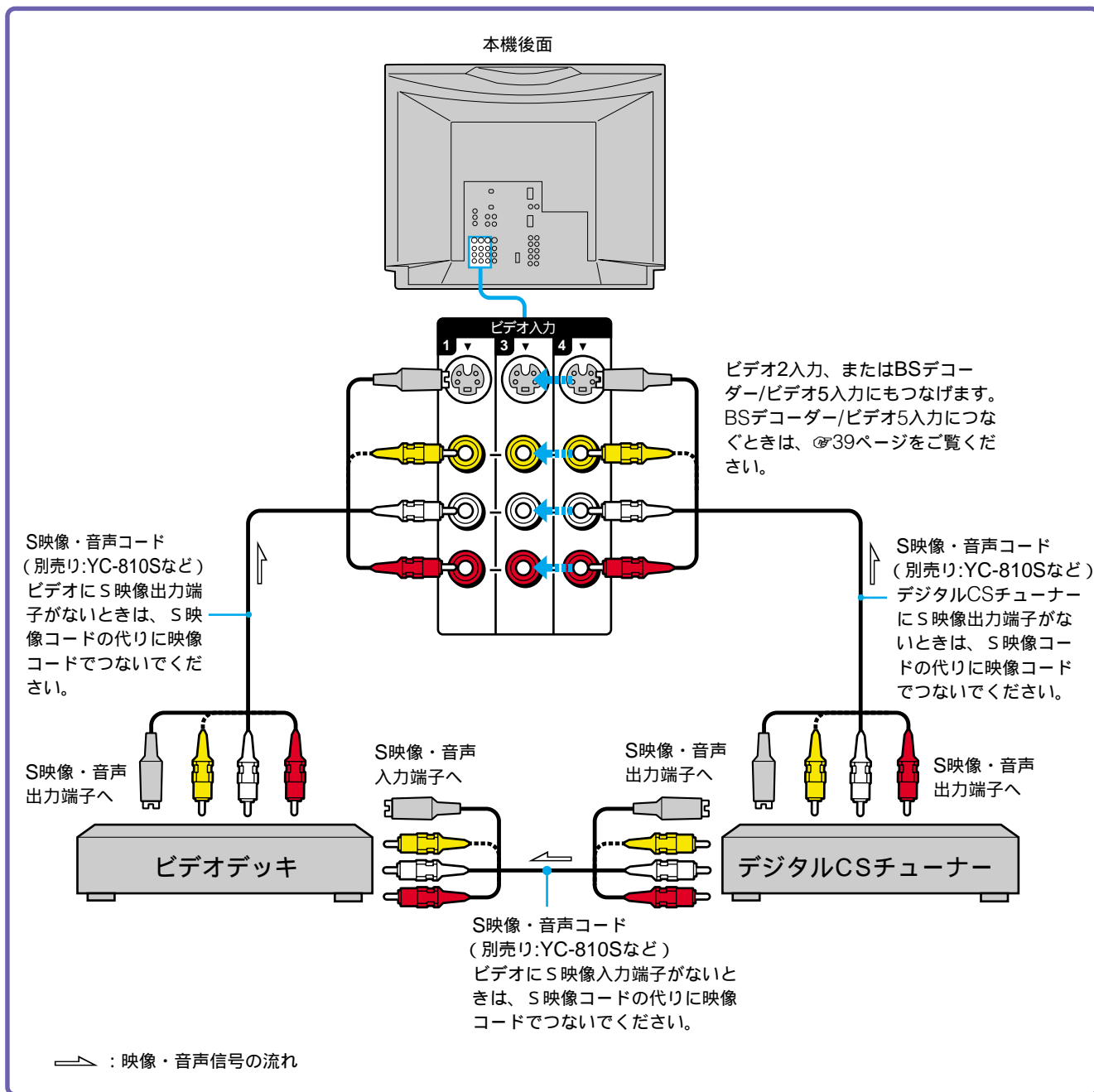
BSデコーダー（WOWOW）をつないでいるときにSt.GIGAを聞くときは、BSデコーダー（WOWOW）側で、音声を独立音声に切り換えてください（テレビで音声は切り換えられません）。ただし、St.GIGAを聞くには、WOWOWとは別に受信契約が必要です（ノンスクランブル放送のときを除く）。
また、BSデコーダー（WOWOW）をつながなくても、St.GIGAがノンスクランブルで放送しているときは、下記の操作を行うとSt.GIGAを聞くことができます。

1 **本機リモコンのBS5ボタンを押す。**
2 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**
3 **⬆/⬇で「(各種切換)」を選び、決定ボタンを押す。**
4 **⬆/⬇で「TV/独立音声」を選び、決定ボタンを押す。**
5 **⬆/⬇で「独立」を選び、決定ボタンを押す。**
6 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

ちょっと一言
1999年6月現在、St.GIGAはBS5チャンネルでのみ放送されています。

他機との接続

デジタルCSチューナーをつなぐ

デジタルCS放送を見るには、デジタルCS放送局と受信契約が必要です。詳しくはデジタルCS放送局へお問い合わせください。
デジタルCSチューナーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

デジタルCS放送を見るには

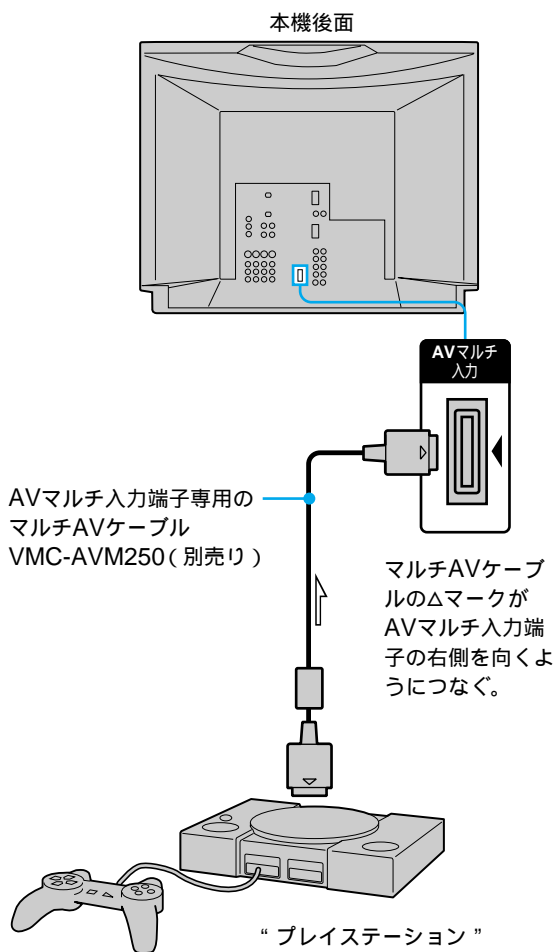
ビデオボタンをくり返し押して、デジタルCSチューナーをつないだビデオ入力（「ビデオ1」～「ビデオ5」のいずれか）を表示させる。
詳しくは、☞11ページをご覧ください。

テレビゲームをつなぐ

本機後面のAVマルチ入力端子や、本機前面のビデオ2入力端子にテレビゲームをつなぎます。“ プレイステーション ”やテレビゲームの取扱説明書もあわせて、お読みください。

“ プレイステーション ”は、（株）ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

“ プレイステーション ”をAVマルチ入力端子につなぐ

RGB接続になり、よりきれいな画像でゲームを楽しむことができます。

“ プレイステーション ”をするには

AVマルチボタンを押す。
詳しくは、☞11ページをご覧ください。

“ プレイステーション ”の画面の左右位置を調整するには

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ↑/↓で「（各種切換）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

3 ↑/↓で「AVマルチ画面位置」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

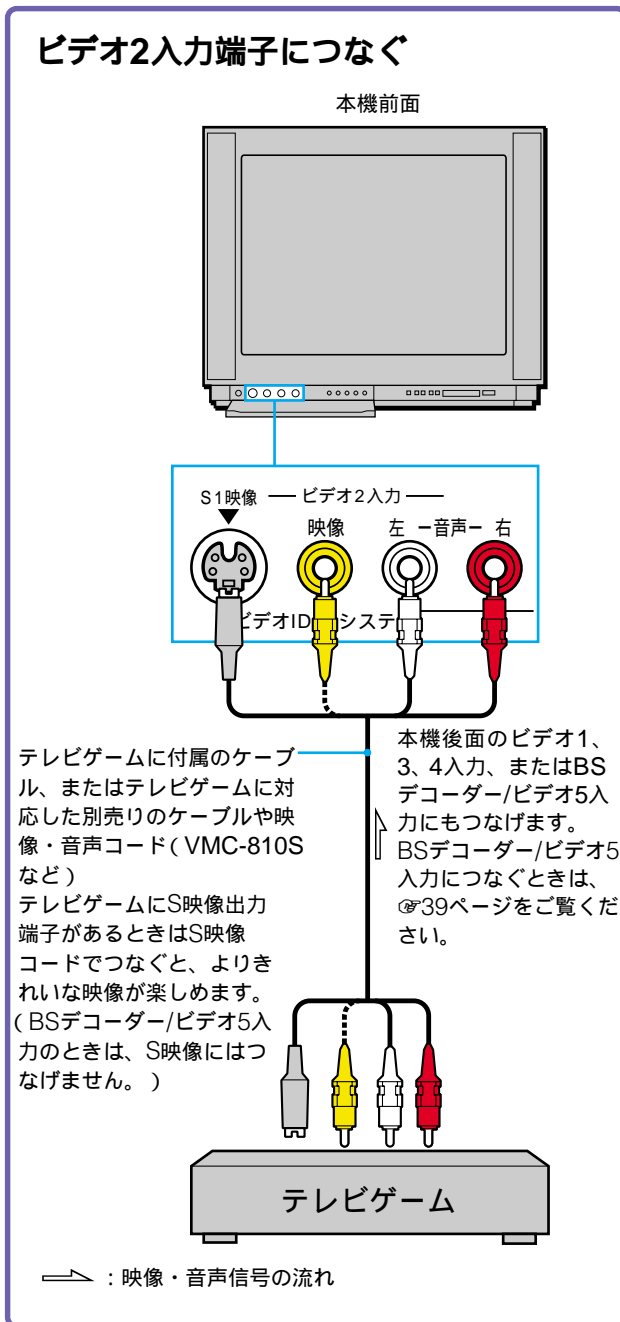
4 ↑/↓で画面の左右位置を調整する。

5 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意

- AVマルチ入力端子は、RGB映像信号のため、ビデオ入力端子に比べて色の帯域が広くなっています。色あいが異なる場合がありますが、本機に影響はありません。
- 電子的なライフルやガン（銃）などで標的にして楽しむシューティングゲームなどは、本機の画面を使用できないことがあります。詳しくは、ゲームソフトの取扱説明書をご覧ください。
- AVマルチ入力端子につないだ機器の映像のときは、DRC-MFモード切換ボタン（☞7ページ）が働かないことがあります。テレビゲームの映像がプログレッシブ信号のときは自動的に判断して、プログレッシブモードに固定するためです。
- 「AVマルチ画面位置」は、AVマルチボタンで切り換えた「AVマルチ」の画像でのみ、調整できます。

次のページにつづく

ビデオ2入力端子につなぐ

テレビゲームをするには

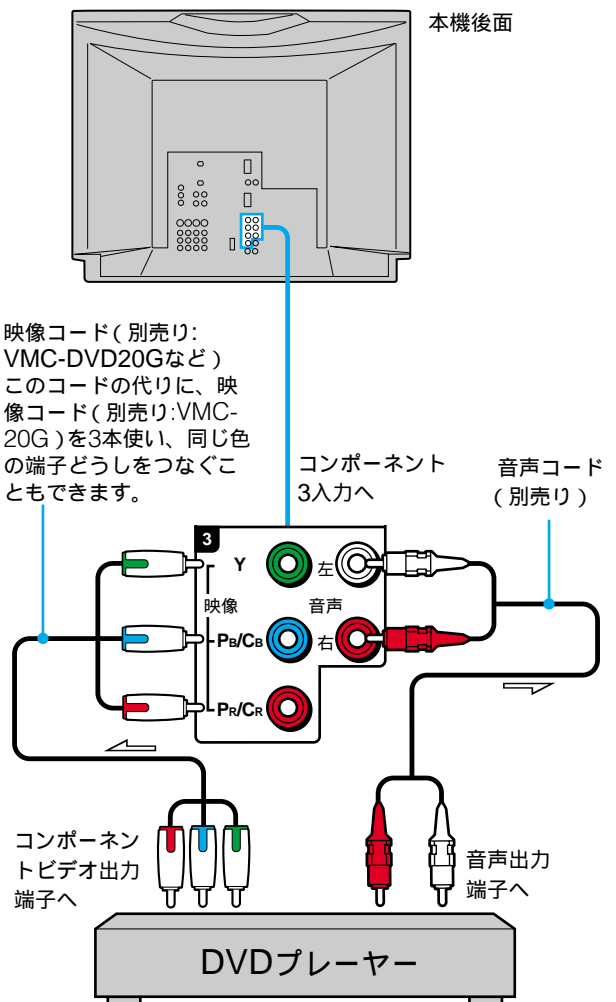
ビデオボタンをくり返し押して、テレビゲームをつないだビデオ入力（「ビデオ1」～「ビデオ5」のいずれか）を表示させる。
詳しくは、☞11ページをご覧ください。

ご注意

電子的なライフルやガン（銃）などで標的にして楽しむシューティングゲームなどは、本機の画面を使用できないことがあります。詳しくは、ゲームソフトの取扱説明書をご覧ください。

DVDプレーヤーをつなぐ

コンポーネントビデオ出力端子のあるDVDプレーヤーは本機のコンポーネント3入力端子につなぐと、より高画質の画像をお楽しみいただけます。
DVDプレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

コンポーネントビデオ出力端子のあるDVDプレーヤーのときは

DVDプレーヤーのコンポーネントビデオ映像端子は、メーカーにより色や名前が異なります。右表のようにつないでください。

DVDプレーヤーの映像端子	本機の映像端子
Y端子	Y端子
CB、B-Y、PB端子	PB/CB端子
CR、R-Y、PR端子	PR/CR端子

：映像・音声信号の流れ

DVDを見るには

コンポーネントビデオ出力端子のあるDVDプレーヤーのときは

コンポーネントボタンをくり返し押して、DVDプレーヤーをつないだコンポーネント3入力（「コンポーネント3」）を表示させる。

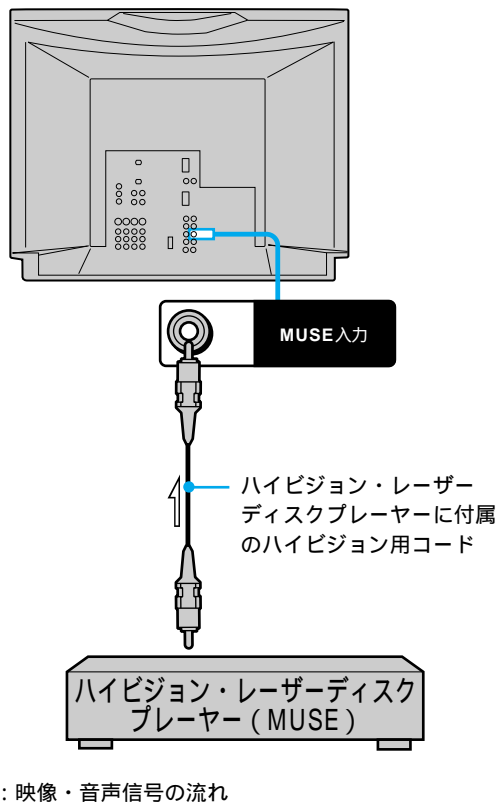
コンポーネントビデオ出力端子のないDVDプレーヤーのときは

ビデオボタンをくり返し押して、DVDプレーヤーをつないだビデオ入力（「ビデオ1」～「ビデオ5」のいずれか）を表示させる。
詳しくは、☞11ページをご覧ください。

ハイビジョン機器をつなぐ

ハイビジョン（MUSEまたはベースバンド）機器をつなぎます。
ハイビジョン機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

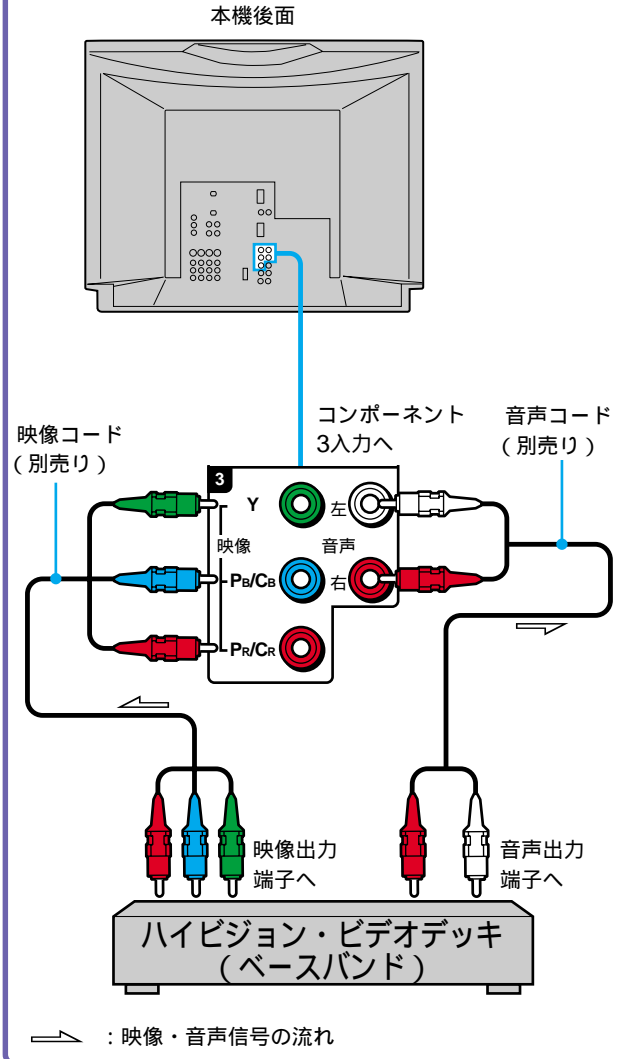
ハイビジョン・レーザーディスクプレーヤー（MUSE）をつなぐ

本機内蔵のMUSE-NTSCコンバーターで通常のテレビ放送（NTSC）に変換された画質で、見ることができます。

ハイビジョン・レーザーディスクプレーヤー（MUSE）を見るには

MUSEボタンを押す。
詳しくは、☞11ページをご覧ください。

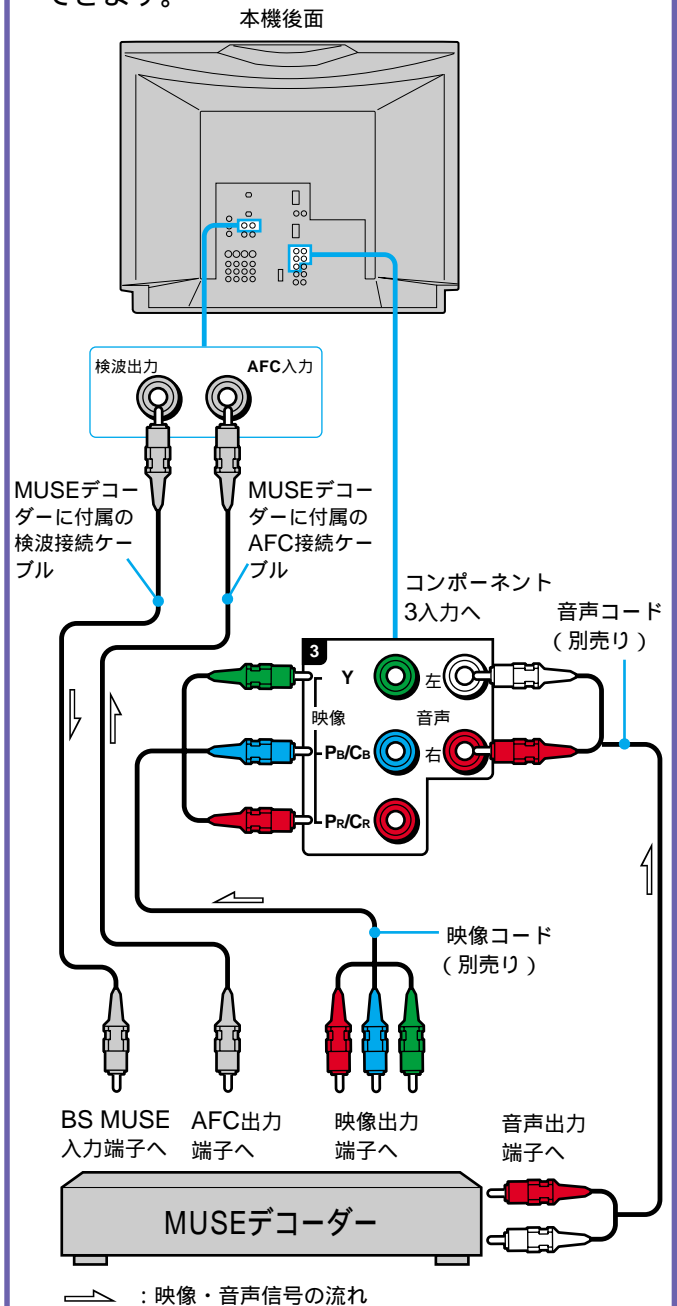
次のページにつづく

ハイビジョン機器をつなぐ（つづき）

ハイビジョン・ビデオデッキ（ベースバンド）をつなぐ

ハイビジョン・ビデオデッキ（ベースバンド）を見るには

コンポーネントボタンをくり返し押して、ベースバンド機器をつないだコンポーネント3入力（「コンポーネント3」）を表示させる。
詳しくは、☞11ページをご覧ください。

MUSEデコーダーをつなぐ

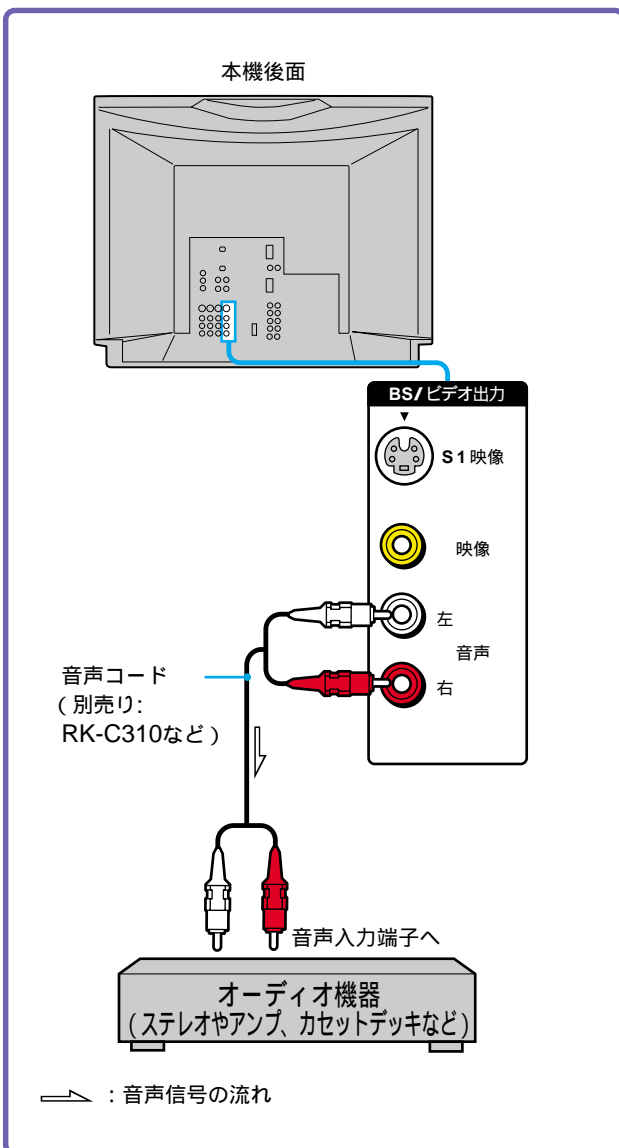
ハイビジョン放送をより高画質で見ることができます。

ハイビジョン放送を見るには

1 **MUSEデコーダーで、本機をつないだ入力を選ぶ。**

2 **本機リモコンのBS9ボタンを押す。**

3 **コンポーネントボタンをくり返し押して、MUSEデコーダーをつないだコンポーネント3入力（「コンポーネント3」）を表示させる（☞11ページ）。**
詳しくは、 MUSEデコーダーの取扱説明書をご覧ください。

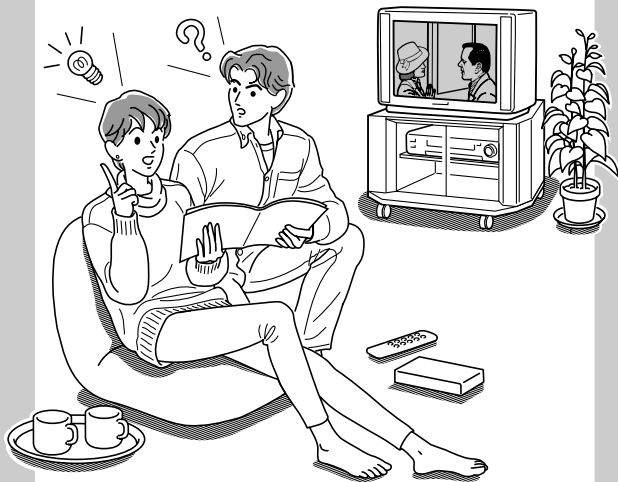
オーディオ機器をつなぐ

つないだオーディオ機器でテレビの音量を調整したり、つないだスピーカーからテレビの音声を聞いたりできます。
オーディオ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ちょっと一言

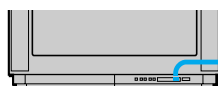
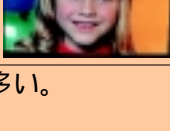
- コンポーネント入力につないだ機器の音声信号も出力できます。ただし映像信号は出力されません。
- お買い上げ時は、ビデオ1入力につないだ機器の信号は出力しない設定になっています。ビデオ1入力につないだ機器の映像および音声を出力するときは、設定メニューの「(初期設定)」で、「ビデオ出力設定」を「ビデオ1あり」にしてください(☞40ページ)。

他機との接続

その他

ここでは、本機が正常に動かないときに解決する方法や、お手入れのしかたなどについて説明しています。
また、各部の名前や索引を使って、知りたい情報を探すこともできます。

故障かな？と思ったら

自己診断表示ー画面が消え、スタンバイ/オフタイマーランプが点滅したら

本機には自己診断表示機能がついています。これは本機に異常が起きたときに、スタンバイ/オフタイマーランプの点滅およびその回数でテレビの状態をお知らせし、よりスムーズにサービス対応させていただくための機能です。スタンバイ/オフタイマーランプが赤く点滅したら、下の手順にそって、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

1 スタンバイ/オフタイマーランプの点滅回数を数えてください。3秒おきに点滅します。
たとえば、2回点滅→3秒あき→2回点滅…この場合の点滅回数は2回です。
2 テレビ本体の電源スイッチで電源を切り、電源コンセントを抜いてから、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に点滅回数を知らせてください。

本機の症状と対処のしかた

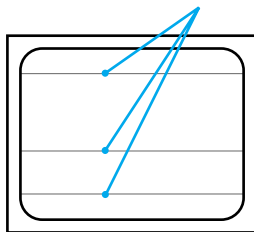
症状		対処のしかた
画像が出ない	**すべてのチャンネルが映らない。**	• 電源コードをしっかりつないでください。 • テレビ本体の電源を入れてください。 • アンテナ線をしっかりつないでください。
	特定のチャンネルだけが映らない。	• チャンネルを合わせ直してください（☞27ページ）。
	テレビの電源が突然切れた/いつのまにか消えていた（スタンバイ状態になった）。	• テレビの消し忘れを防ぐため、放送終了後、または放送のないチャンネルを受信している状態やつないだ機器からの入力信号がない状態で約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて、自動的にスタンバイ状態になります。 • オフタイマーを設定していませんでしたか?（☞19ページ）
	つないだ機器の画像が出ない。	• 接続コードをしっかりつないでください。 • リモコンの入力切換用のボタンを押してください（☞11ページ）。 • S映像入力のときは、メニューの「 （各種切換）」で「S映像:入」にしてください（☞39ページ）。
BS放送が映らない／乱れる	**BS放送が映らない/画像が乱れている。**	**マンションなどの共同受信システムの場合** • 設定メニューの「 （BS設定）」で「BSアンテナ電源:切」にしてください（☞30ページ）。 • サテライト分波器でVHF/UHFとBSを分けてください（☞25ページ）。 • ケーブルの芯線をコネクターに正しく差し込んでください。 **BSアンテナを直接つないでいる場合** • 設定メニューの「 （BS設定）」で「BSアンテナ電源」を「オート」または「連動」にしてください（☞30ページ）。 • BSアンテナ側は防水型コネクターをつないでください。 • アンテナの大きさが適切かを確認してください。 • アンテナの前方に障害物があれば取り除いてください。 • アンテナの方向・角度を調整してください（☞31ページ）。 **複数のBS機器をサテライト分波器でつないでいる場合** • BSアンテナ用電源を供給する機器のスイッチを「入」にしてください。 **その他** • BSの放送時間を確認してください。 • 雨や雪が降ると、映りが悪くなることがあります。 • BS専用のケーブルを使ってください（☞26ページ）。 • アンテナコネクター（バルーン）を使っていないかを確認してください。 • WOWOWなどのスクランブル放送でないかを確認してください。
	BS放送のチャンネルが切り換わらない。	• BS固定にしていないかを確認してください（☞17ページ）。
	WOWOWが映らない。	• WOWOWを見るには、WOWOWと受信契約が必要です。詳しくはWOWOWへお問い合わせください。 • BSデコーダー（WOWOW）は、本機のBSデコーダー/ビデオ5入力端子につないでください。 • 設定メニューの「 （BS設定）」の「デコーダー/ビデオ」を「デコーダー」にしてください（☞45ページ）。

故障かな？と思ったら（つづき）

症状		対処のしかた
きれいに映らない	画像が二重、三重になる。	● アンテナ線をしっかりつないでください。 ● アンテナの位置、方向、角度を調整してください。 ● 設定メニューの「（テレビ設定）」の「GR設定変更」で「GR:入」にしてください（☞33ページ）。
	雪が降るような画面、うすい画面、風がふくとちらつく。	● アンテナが風でこわれたり曲がったりしていないか確認してください。 ● アンテナの寿命を確認してください（通常3〜5年、海辺では1〜2年）。
	斑点や点模様が走る。	● ヘアードライヤー、自動車、バイクなどからの雑音電波の干渉を受けています。アンテナはなるべく道路から離して設置してください。
	色がつかない、色がおかしい、画面が暗い。	● お好み画質ボタンを押して、画質設定を選んでください（☞6ページ）。 ● メニューの「（画質/音質）」で画質を調整してください。 ● 「消費電力:減」のときは、画面が暗くなります（☞8ページ）。
	画面がまぶしい。	● お好み画質ボタンを押して、画質設定を選んでください（☞6ページ）。
	画面の一部に色むらがある。	● テレビをマンションの壁、金属スタンド、ビデオデッキまたはスピーカーなどから離して置いてください。 ● テレビをしばらく見た後、テレビの向きを変えると色むらが発生することがあります。このときは、地磁気の影響を受けています。1度電源を切り、約30分後にテレビを見る向きにしてから電源を入れ直すと、自動消磁回路が働き、地磁気の影響が軽減されます。
	画像が傾いている、上下にかたよっている。	● 設定メニューの「（初期設定）」で「方角補正　回転」と「方角補正　上下」を調整してください（☞35ページ）。
	縞状のノイズが多い。	● 付属のアンテナ接続ケーブルを使って、テレビアンテナをつないでいるかを確認してください。 ● アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。 ● 室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。
	ビデオの再生/録画時に縦縞状のノイズが出る。	● ビデオヘッドが干渉しています。できるだけビデオをテレビから離して置いてください。
	AVマルチ入力端子につないだ“プレイステーション”の画像がずれる。	● メニューの「（各種切換）」で「AVマルチ画面位置」を調整してください（☞47ページ）。
音が出ない／雑音が多い	画像は出るが、音が出ない。	● 音量が下がりきっていないか確認してください。 ● 画面に「消音」の表示が出ているときは、リモコンの消音ボタンか音量＋ボタンを押して表示を消してください。 ● ヘッドホンを抜いてください。
	雑音が多い。	● 付属のアンテナ接続ケーブルを使って、テレビアンテナをつないでいるかを確認してください。 ● アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。 ● 室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。 ● 設定メニューの「（音声設定）」で「オートステレオ」を「切」にしてください（☞16ページ）。

症状		対処のしかた
メニューが選べない／表示が消えない	**メニューで選べない項目がある。**	● 暗い灰色で表示されている項目は選べません（見ている画像の種類やメニューの設定によって、選べないように制約されています）。
	「BSアンテナ電源を確認してください」の表示が消えない。	● マンションなどの共同受信システムのときは、設定メニューの「(BS設定)」で「BSアンテナ電源」を「切」にしてから、いったんテレビの電源を切ってください（☞30ページ）。 ● BSアンテナをつないでいるときは、BSアンテナのアンテナ線がショートしています。テレビ本体の電源を切って、お買い上げ店またはサービス窓口にご相談ください。
画面が切り換わる／つぶれて見える	**「ワイドモード」が「オート」のときに画面モードが勝手に切り換わる。**	● 横縦比の信号（ID-1/S1方式）が入った映像は、自動判別して、縦方向を圧縮した横縦比16:9のワイド画面にするためです。
	「ワイドモード」が「入」のときに画面がつぶれて見える。	● 通常のテレビやBS放送など横縦比4:3の映像で、「ワイドモード」を「入」にすると、縦方向に圧縮されて不自然に見えることがあります。メニューの「(各種切換)」で「ワイドモード」を「オート」にしてください（☞9ページ）。 ● ワイドクリアビジョン放送や上下に黒帯が入っている横長の映画などのワイド画像のときは、横縦比の信号が含まれていないため、従来から入っていた黒帯部分まで縦方向に圧縮されて、よりつぶれた映像になるためです。メニューの「(各種切換)」で「ワイドモード」を「オート」または「切」にしてください（☞9ページ）。
テレビから異音がする	**「ピシッ」というきしみ音が出る。**	● 周囲の温度変化でキャビネットが伸縮し、「ピシッ」という音が出ることがありますが、本機に影響はありません。
	電源を入れたときにブーンという音がする。	● 地磁気などの影響を取り除く消磁回路の動作音で、本機に影響はありません。
	テレビの電源を切った直後に、テレビの後ろからパチパチ音がする。	● テレビ内部で発生する静電気が原因で、本機に影響はありません。
画面が一瞬光る	**暗い部屋で電源を入れたときに、画面周辺が一瞬光って見える。**	● ブラウン管内で、電源が入る際に発生する高電圧のために、ブラウン管内の蛍光部が光るためです。本機の性能その他に影響はありません。
リモコンが働かない	**リモコンで操作できない。**	● 電池を交換してください。 ● 電池の⊕⊖を正しい向きに入れてください。 ● 本体のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯していないときは、本体の電源スイッチを押してください。 ● リモコンをリモコン受光部に正しく向けて、近くから操作してください。 ● リモコン受光部の近くに蛍光灯などの強い照明があたっているときは、離して置いてください。
	リモコンのチャンネル数字ボタンを押しても、チャンネルが選べない。	**ダイレクト選局の場合（☞32ページ）** ● 設定メニューの「(テレビ設定)」の「選局」が「ダイレクト」になっているかを確認してください。 **10キー選局の場合（☞32ページ）** ● 設定メニューの「(テレビ設定)」の「選局」が「10キー」になっているかを確認してください。 ● 11チャンネルは①を2回、12チャンネルは①と②を続けて押してから、⑫/選局を押してください。 ● チャンネル数字ボタンに続けて⑫/選局を押してください。

画面に細い横線が出たら（ダンパーワイヤー）

画像によっては、極めて細い水平線が見えることがあります。これは、ダンパーワイヤーと呼ばれる線材の影で、位置は下図に示されているとおりです。ダンパーワイヤーはトリニトロン管内部のアパチャーグリルの振動を抑えるために取り付けられており、より高画質な映像をお楽しみいただけるように工夫されたものです。

ブラウン管表面のお手入れについて

ブラウン管表面が汚れているときは、市販のガラスクリーナー、または研摩剤の入っていない中性洗剤を水で薄め、柔らかい布に含ませ固く絞ってから、拭き取ってください。
表面を傷つけることがあるため、固い布の使用や、から拭きはやめてください。また、塩素系や塩酸などの酸性洗浄液や、クレンザーや歯磨粉など研磨剤入りの洗浄剤も使わないでください。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではお使いになれません。

保証書について

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げの店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。ただし、ブラウン管代およびブラウン管の交換にともなう技術料、出張料は2年間無料です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかをお調べください。

それでも具合が悪いときはサービス窓口へ
お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある、お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

部品の保有期間について
当社では、カラーテレビの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後でも、故障個所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。
なお、補修用性能部品の保有期間は通商産業省の指導によるものです。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。
型名：KV-29DRX5, KV-34DRX5
故障の状態：できるだけくわしく
購入年月日：

お買い上げ店 **TEL.**
お近くのサービスステーション **TEL.**

This television is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

主な仕様

システム

受信方式　NTSC方式
受信チャンネル　VHF 1～12チャンネル
UHF 13～62チャンネル
CATV C13～C35（ケーブルテレビ放送会社との受信契約が必要）
BS1、3、5、7、9、11、13、15
ブラウン管*　KV-29DRX5:FDトリニトロン104度偏向29型
KV-34DRX5:FDトリニトロン105度偏向34型
* テレビの型（29型など）は画面寸法を表すものではなく、ブラウン管の外径対角寸法を基準とした大きさの目安です。
画面寸法　KV-29DRX5:54.0×40.5、67.5cm対角
KV-34DRX5:64.0×48.0、80.0cm対角
（幅×高さ、対角径）
使用スピーカー　ウーファー12cm×2、
フルレンジスピーカー
（5×9cm楕円）×2
音声出力　音声実用最大出力（EIAJ準拠）
フルレンジスピーカー 7W×2（1kHz, 10%, 8Ω）
ウーファー 7W×2（100Hz, 10%, 8Ω）

入出力端子

アンテナ端子　VHF/UHF、BS IF 75Ω F型コネクター
（コンバーター用電源出力、DC15V最大4W）
ビデオ1、2、3、4入力端子
S1映像:
4ピンミニDIN
Y:1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負
C:0.286Vp-p（バースト信号）、75Ω
映像: ピンジャック、1Vp-p、
75Ω、不平衡、同期負
音声: ピンジャック、2チャンネル、
500mVrms、
インピーダンス 47kΩ以上
BSデコーダー/ビデオ5入力端子
映像: ピンジャック、1Vp-p、
75Ω、不平衡、同期負
音声: ピンジャック、2チャンネル
500mVrms
入力インピーダンス 47kΩ以上
コンポーネント1、2入力端子
D3映像:
Y:1Vp-p（0.3V負同期付き）
C_B/C_R:±350mVp-p
入力インピーダンス 75Ω
音声: ピンジャック、2チャンネル、
500mVrms、インピーダンス
47kΩ以上
コンポーネント3入力端子
映像: ピンジャック
Y:1Vp-p（0.3V負同期付き）
P_B/P_R、C_B/C_R:±350mVp-p
入力インピーダンス 75Ω
音声: ピンジャック、2チャンネル、
500mVrms、インピーダンス
47kΩ以上
AVマルチ入力端子　12ピン
BS/ビデオ出力端子　S1映像:
4ピンミニDIN
Y:1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負
C:0.286Vp-p（バースト信号）、75Ω
映像: ピンジャック、1Vp-p、
75Ω、不平衡、同期負
音声: ピンジャック、2チャンネル、
500mVrms
インピーダンス 4.7kΩ以下
テレビ放送の音声の100%変調時、またはBS放送、MUSE入力の最大出力 –12dB時の数値です。
ヘッドホン端子　ステレオミニジャック
負荷インピーダンス16Ω以上
検波出力端子　ピンジャック、75Ω、0.67Vp-p
ビットストリーム出力端子
ピンジャック、75Ω、0.5Vp-p
AFC入力端子　ピンジャック、75Ω
MUSE入力端子　0.4Vp-p（FM）、入力インピーダンス 75Ω
コントロールS入出力端子
ミニジャック

電源部・その他

消費電力　KV-29DRX5:230W
KV-34DRX5:255W
消費電力（リモコン待機時）:KV-29DRX5/34DRX5共通です。
BS固定が「切」のとき:0.4W
BS固定が「入」のとき:17.0W
年間消費電力量**　KV-29DRX5:305kW・h/年
KV-34DRX5:342kW・h/年
** 年間消費電力量とは:省エネルギー法に基づいて、型サイズや受信機の種類別の算定式により、一般家庭での平均視聴時間（4～5時間）を基準に算出した、一年間に使用する電力量です。
最大外形寸法　KV-29DRX5:74.6×56.9×52.6cm
KV-34DRX5:87.1×66.7×57.6cm
（幅×高さ×奥行き）
質量　KV-29DRX5:約54.9kg
KV-34DRX5:約83.6kg
電源　AC100V、50/60Hz
付属品　リモートコマンダー　RM-J236（1）
乾電池　単3形（2）
アンテナ接続ケーブル（1）
取扱説明書（1）
保証書（1）
ソニーご相談窓口のご案内（1）
安全のために（1）
安全点検のおすすめ（1）

別売りアクセサリー

テレビスタンド　KV-29DRX5:
SU-F200P、SU-F200、SU-28V
KV-34DRX5:
SU-F300P、SU-F300
ステレオヘッドホン
MDR-AV55
テレビラック固定ベルト
BLT-R10
BSアンテナなど
接続ケーブルなど

- 本機は「高調波ガイドライン」適合品です。「高調波ガイドライン」適合品とは、通商産業省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。
- このテレビは日本国内用ですから、電源電圧、放送規格の異なる外国ではお使いになれません。
- 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

用語集

五十音順

ア行

アンテナレベル

アンテナから入ってくる電波の強さです。天候や気温、時間帯、アンテナ接続ケーブルの長さなどによって影響を受けます。

インターレース（飛び越し走査）

走査線525本のうち、まず奇数番目の走査線（262.5本）を1/60秒かけて描き（この1画面を1フィールドという）、次にその間を埋めるように偶数番目の走査線（262.5本）を描き、合わせて走査線525本の1枚の完全な画面（フレーム）を作っていく飛び越し走査のことです。
本機のDRC-MFモード切換ボタンで選べる「DRC4倍密（標準）モード」は、走査線を通常のNTSC映像の2倍の1050本にして、1フィールド目で走査線の525本全部（本来の1フレーム分）を1/60秒で描き、次のフィールドは、1フィールド目の間を525本で飛び越し走査します。

カ行

ケーブルテレビ（CATV）

契約者と放送局をケーブルで直接結んで番組を提供する有線放送です。通常のテレビ番組やBS放送に加え、スポーツや映画の専門チャンネル、地域情報番組や文字放送などを見ることができます。

検波

放送衛星から送られてくるFM電波を復調することです。

ゴースト

放送局からの電波が、テレビアンテナに届く前に、建物や地形の影響で妨害波となり、時間がズレて二重、三重に受信されることです。そのため、正しく送られてきた画像に妨害波の画像が重なって表われた、見にくい画面となります。

サ行

三次元Y/C分離回路

本機で使っている回路の1つで、映像信号を構成するY信号とC信号を別々に処理し、より鮮明な画像を再現します。

スクランブル

映像、音声の信号を暗号化することです。民間BS放送（WOWOWなど）では、契約者以外は視聴できないように、電波にスクランブルをかけて（暗号化して）送信しています。スクランブルのかかった放送を視聴するためには、スクランブルを解除する機器（デコーダーなど）が必要です。

走査線

テレビは、左から右へ流れる電子ビームを上から下へ送ることで画面を作っています。この電子ビームが作る線を走査線と呼び、走査線によって、どのように画面を作っていくかで、インターレースやプログレッシブなどの方式があります。

タ行

チューナー

電波を受信して各チャンネルに合わせるための機器です。本機はテレビチューナーおよびBSチューナーを内蔵しています。

デジタル・リアリティー・クリエーション:マルチファンクション（DRC-MF）

テレビ放送やビデオなどのNTSC映像を、ソニー独自のデジタル信号処理アルゴリズムによって、高精細なリアル映像につくり換えます。従来の線形補間方式の処理とは全く異なり、動画部分の輪郭のボケが少ないスッキリとした画像になります。また、映像によって、通常のNTSC映像の4倍の情報量で映し出す「DRC4倍密（標準）モード」と、順次走査を行い、チラツキを抑えた映像にする「DRCプログレッシブモード」を切り換えられます。

デジタルCS放送

通信衛星を使ったCS放送の一種です。従来のアナログCS放送とは違い、映像や音声をデジタル化することで、大量の情報を扱えます。これにより、多チャンネルの放送を高画質・高音質で楽しめます。

独立音声放送

民間BS放送（St. GIGAなど）の中には、1つのチャンネルで映像の音声とは別に、音声だけの放送が行われている場合があります。これが独立音声放送です。

ハ行

ビットストリーム

BS放送で送られてくる電波のデジタル信号（音声とデータ）です。データ信号は、文字放送などに使われています。

プログレッシブ（順次走査）

飛び越し走査（「インターレース」の項目を参照）をしないで、1フィールド目で525本全部の走査線を順番どおりに描き、次のフィールドも同じ場所を525本全部の走査線で描いていく順次走査のことです。
本機のDRC-MFモード切換ボタンで選べる「DRCプログレッシブモード」は、走査線525本の順次走査を行い、静止画の文字やグラフィック、横線などの多い画像で、チラツキを抑えた映像にします。

ヤ行

有効走査線数

走査線のうち、映像信号が載っている走査線の数のことを言います。通常のテレビ放送やBS放送では、525本ある走査線のうち有効走査線数は480本です。ハイビジョン放送では同じく1125本中1035本、将来予定されているデジタルハイビジョン（HD）放送では、1125本中1080本となっています。なお、有効走査線に含まれていない残りの走査線（映像信号の載っていない走査線）には、画面の横縦比を規定した識別制御信号などが載っています。

数字・アルファベット順

BSデコーダー（WOWOW）

WOWOWなど民間BS放送の電波にかかったスクランブルを解除する機器です。

D端子

将来予定されているBSデジタル放送などに対応したコンポーネント映像端子です。BSデジタル放送受信アダプターなどと、1本のケーブルで簡単に映像信号を接続できます。コンポーネント映像で接続するため、より高画質な画像を楽しめます。D端子には対応する信号フォーマットによって、次の種類があります。
本機にはD3入力端子が付いてます。

- D1端子 :525i（480i）の信号に対応
- D2端子 :525i（480i）と525p（480p）の信号に対応
- D3端子 :525i（480i）と525p（480p）、1125i（1080i）の信号に対応

iはインターレース、pはプログレッシブの略です。
（ ）内は有効走査線数で数えたときの別称です。

ID-1方式（ビデオID-1システム）

ビデオ信号の一部にデジタルのID信号を加算することにより、画面の横縦比（16:9、4:3またはレターボックス）の情報を記録するシステムの名前です。本機はID-1方式に対応しています。ID-1方式対応のビデオカメラやビデオデッキなどを、本機のビデオ1〜4入力端子、およびBSデコーダー/ビデオ5入力端子につなぐと、ID-1方式の画像となります。ただし、あらかじめビデオカメラなどで「ワイドTV」モードを「入」にして録画した画像に限ります。

MUSE

ハイビジョン放送の帯域圧縮伝送方式です。27MHzのハイビジョン信号を8MHzに圧縮して、BS放送の1チャンネル分で送れるようにしています。

MUSE-NTSC（M-N）コンバーター

MUSE方式のハイビジョン放送を現行の放送方式（NTSC）に変換するための機器です。画質は現行の放送方式(NTSC)と同等になります。
本機はMUSE-NTSCコンバーターを内蔵しています。

NTSC方式

日本やアメリカなどで使われているカラーテレビ方式で、毎秒30コマ、水平走査線数525本などが特長です。アメリカの連邦テレビジョン方式委員会（National Television System Committee）が制定し、1954年に放送が正式に開始されました。欧州や中国などで使われているPAL方式やSECAM方式とは互換性がありません。

S1方式（S1映像）

S映像のC端子へ直流5Vを重畳することにより、画面の横縦比（16:9または4:3）の情報を記録するシステムの名前です。
本機はS1方式に対応しています。S1映像出力端子が付いたビデオカメラなどを、本機のS1映像入力端子につなぐと、S1方式の画像となります。
ただし、あらかじめビデオカメラなどで「ワイドTV」モードを「入」にして録画した画像に限ります。

その他

各部の名前/
Identifying parts and controls

本機前面/TV Front Panel

* イラストはKV-34DRX5です。KV-29DRX5では、*のついている端子やランプの名前の位置は、KV-34DRX5と上下が逆の位置になっています。

リモコン/Remote Control

その他

メニュー一覧

リモコンの メニュー を押すと出るメニュー

画質/音質
(☞ 12ページ)

画質／音質
戻る
DRC−MF：
DRC4倍密・標準
お好み画質： リビング
画質調整
音質調整
選択 決定 決定 終了 メニュー

画質調整 (☞ 13ページ)

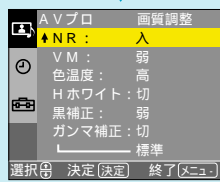
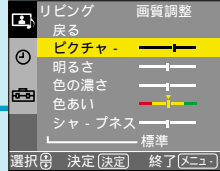
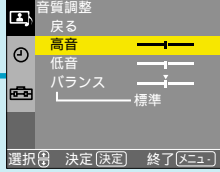
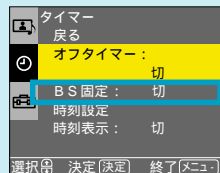
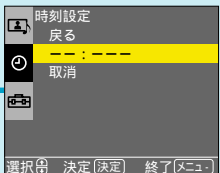
リビング 画質調整
戻る
ピクチャー
明るさ
色の濃さ
色あい
シャープネス
標準
選択 決定 決定 終了 メニュー

AVプロ 画質調整
NR： 入
VM： 弱
色温度： 高
Hホワイト：切
黒補正： 弱
ガンマ補正：切
標準
選択 決定 決定 終了 メニュー

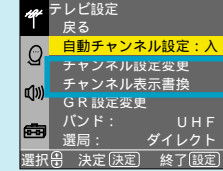
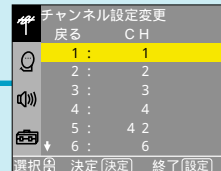
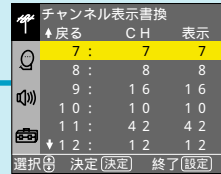
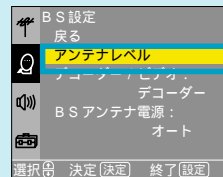
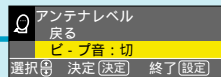
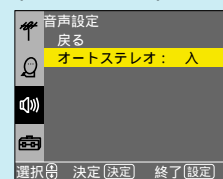
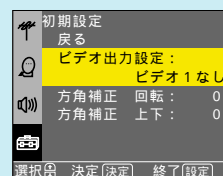
音質調整 (☞ 15ページ)

音質調整
戻る
高音
低音
バランス
標準
選択 決定 決定 終了 メニュー

タイマー
(☞19ページ)

タイマー
戻る
オフタイマー： 切
BS固定： 切
時刻設定
時刻表示： 切
選択 決定 決定 終了 メニュー

時刻設定
(☞ 20ページ)

時刻設定
戻る
ーー：ーーー
取消
選択 決定 決定 終了 メニュー

各種切換
(☞ 9, 15, 39, 45, 47ページ)

各種切換
戻る
消費電力： 標準
ワイドモード： オート
二重音声：
画面表示： 入
AVマルチ画面位置：
選択 決定 決定 終了 メニュー

各種切換
画面表示： 入
AVマルチ画面位置：
HDモード：
TV／独立音声： TV
音像定位： 強
S映像： 入
選択 決定 決定 終了 メニュー

- メニューは▲/▼で選び、決定ボタンで決定します。
- 黄色で表示される部分が選ばれています。
- 灰色で表示される部分は選べません。

索引

五十音順

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

わ行

数字・アルファベット順

数字

アルファベット